ディマージュ X50

DiMAGE X50

J 使用説明書

ディマージュ X50 使用説明書

目次

お買い上げありがとうございます。
ディマージュ X50 は、軽量・コンパクトなボディに光学 2.8 倍ズームを搭載したデジタルカメラです。超薄型ボディやスライドカバーを開けるとすぐに撮影ができる快適さに加え、フルオートシーンセレクターや動画撮影、音声記録、画像の合成、動画の静止画切り出し・編集などの豊富な機能を備えています。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

（右上に続く）

基本編（つづき）

（左下からの続き）

（右上に続く）

応用編（つづき）

（左下からの続き）

再生編 72

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

（右上に続く）

再生編（つづき）

（左下からの続き）

セットアップ編 98

液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

（次ページに続く）

セットアップ編（つづき）

（前ページからの続き）

その他編 110

画像のパソコンへの保存、PC カメラ機能、PictBridge による印刷、メッセージ表示、取り扱いの注意や保管、アクセサリーなど様々な説明をしています。必要に応じてお読みください。

（右上に続く）

その他編（つづき）

（左下からの続き）

<らくらくリペアサービスのご案内>

弊社では新しい修理受付サービス「らくらくリペアサービス」をスタートいたしました。お客様自らご送付の手続きに出向かれることなく、「(梱包後) お引き取り」→「修理」→「お届け」をワンパックにし、お客様のご自宅と弊社修理センターを直結。
面倒な手続きを弊社お任せでご利用いただける「らくらくリペアサービス」を是非ご利用ください。

サービス利用料金

全国一律 900 円でご利用いただけます。(税込)

- ●保証適用外の場合は別途修理料金と代引き手数料がかかります。
- ●サービス利用料金はお申し込みの際に今一度お確かめください。

ご利用方法

1. インターネット・電話のいずれかの方法で、下記「らくらくリペアサービス係」へ申し込みください。
2. お申し込み後 1 日〜 2 日後に弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際、梱包材料を持参いたしますので、その場で修理依頼品を梱包の上、宅配業者にお渡し頂くか、もしくはお引き取り日を宅配業者にご指定ください。
   - ●修理依頼品梱包時にもアフターサービスのご案内の「らくらくリペアサービス修理依頼書」に必要事項をご記入の上、同梱願います。
   - ●保証期間内の場合は、必ず保証書を同梱してください。
3. デジタルカメラの修理品はお預かり後、5 日程度でお届けいたします。
   - ●お届けの際に、代金を宅配業者にお支払いください。各種クレジットカードのお取り扱いはできません。

【らくらくリペアサービス係】

ナビダイヤル 0570-001112 ナビダイヤルは市内通話料金でご利用頂けます。
受け付け時間：9:00 〜 17:00（土・日・祝日は除く）
ホームページ→ http://ca.konicaminolta.jp

- ●ナビダイヤルは、携帯電話・自動車電話・PHS・列車公衆電話・船舶電話等からはご利用できません。
- ●お客様の電話機の ACR 機能設定等時に、ナビダイヤルをご利用になれない場合があります。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。（左図の場合は発火注意）

充電式リチウムイオン電池 NP-700 について

⚠ 危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池のプラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠危険

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度：0℃～ 40℃

火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃± 5℃）でのご使用をおすすめします。

保管時温度：－ 20℃～ 30℃
湿度：45% ～ 85%

⚠警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・AC アダプターについて

⚠警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

（次ページへ続く →）

⚠ 警告

充電器 BC-800 の AC コードは、100-120 ボルト、50/60 ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

AC アダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器や AC アダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

⚠ 警告

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器や AC アダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器や AC アダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器や AC アダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

（次ページへ続く →）

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。

外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。

電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。

本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。

発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。

液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器や AC アダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。

電源プラグが傷ついていたり､差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器や AC アダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。

熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

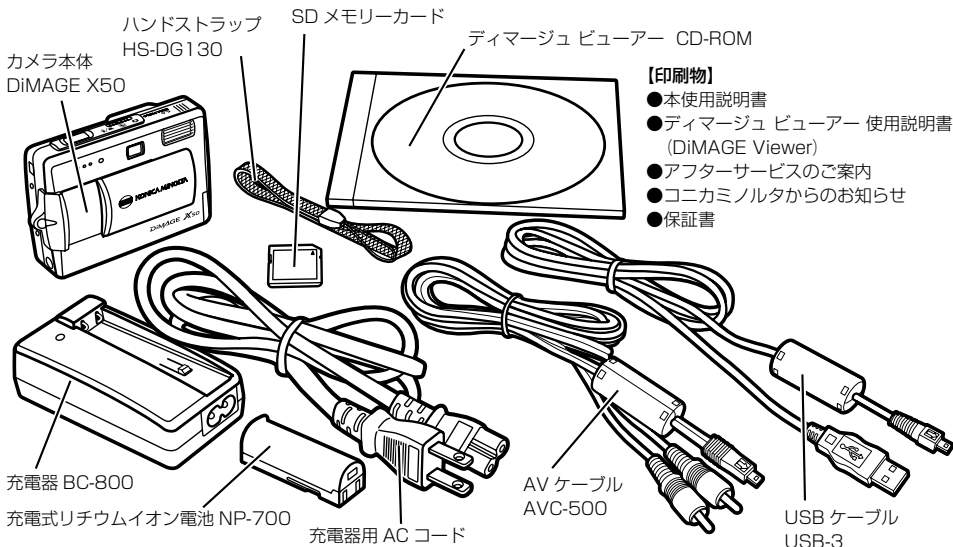
お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器や AC アダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。

火災や感電の原因となります。

充電器や AC アダプターを、電子式変圧器（海外旅行用の携帯型変圧器など）を介してコンセントに接続しないでください。

故障や火災の原因となります。

内容物の確認

お買い上げのパッケージに下記の内容物が入っているかご確認ください。不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

ご注意

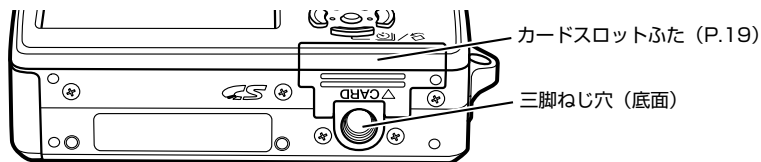
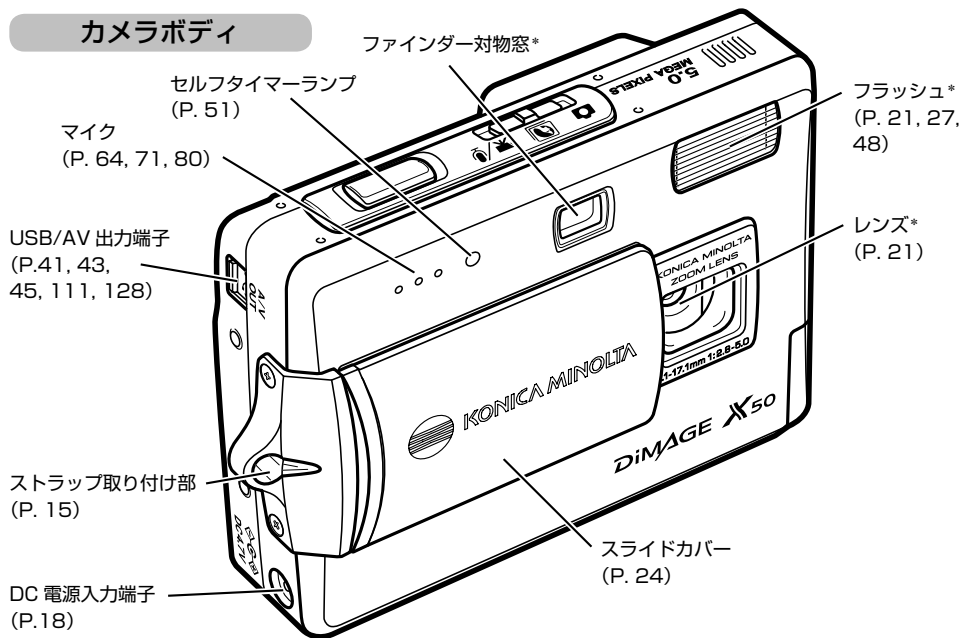
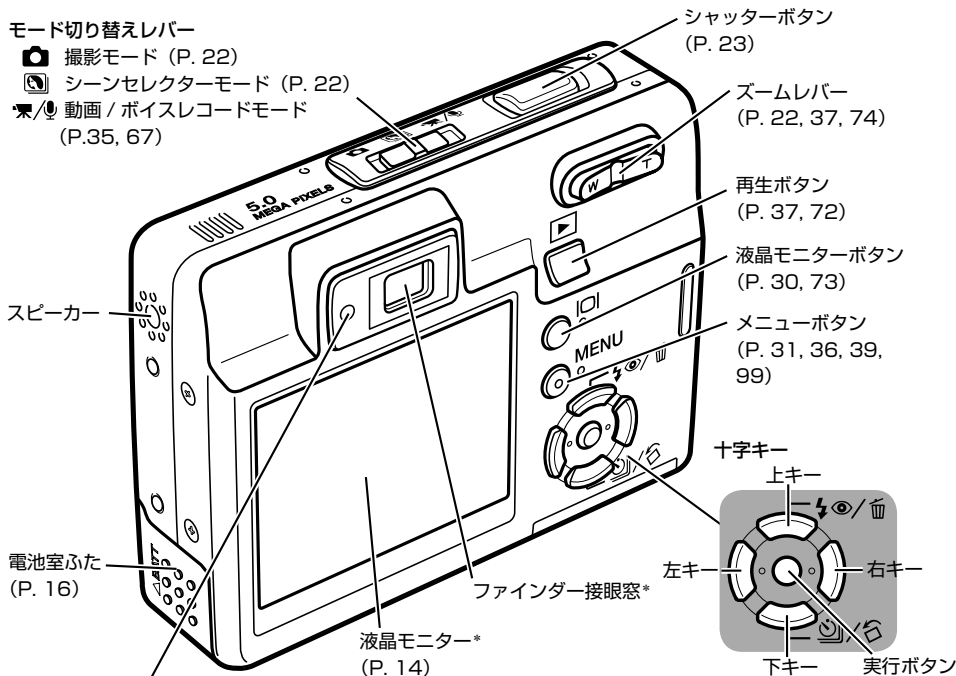
電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正の充電式リチウムイオン電池をお使いください。

ユーザー登録について

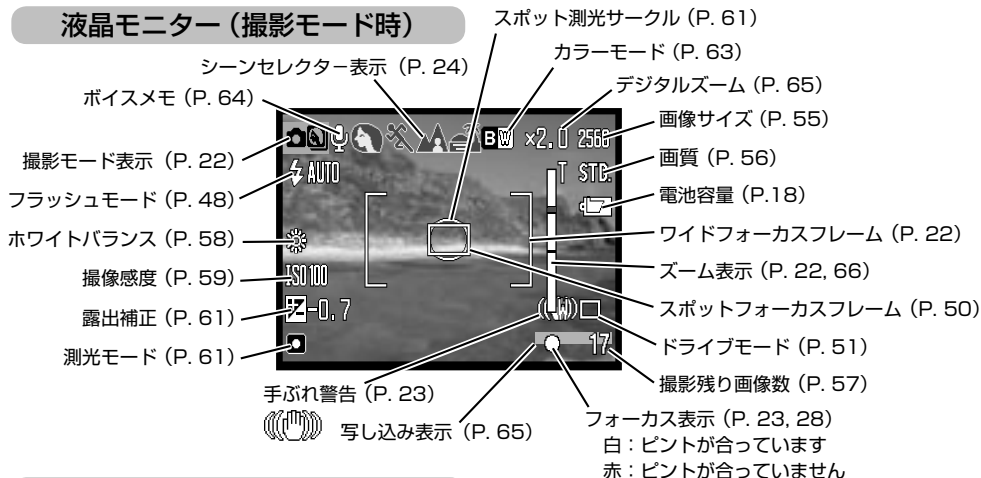
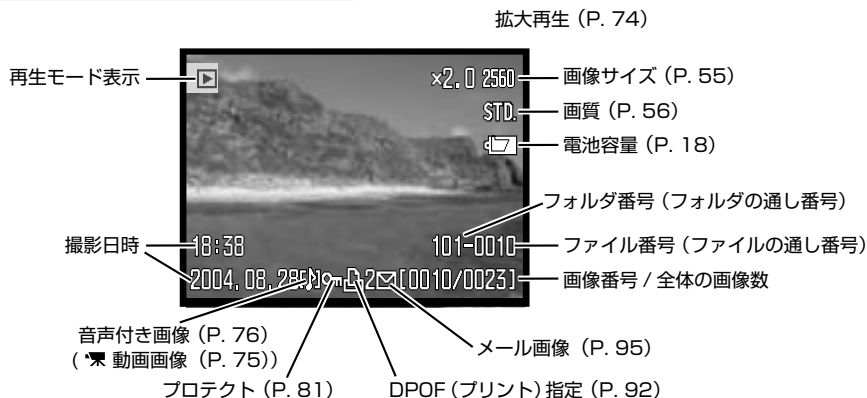
本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

各部の名称

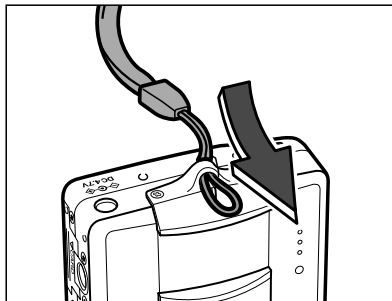
*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　) 内は参照ページです。

カメラボディ

撮影 / アクセスランプ

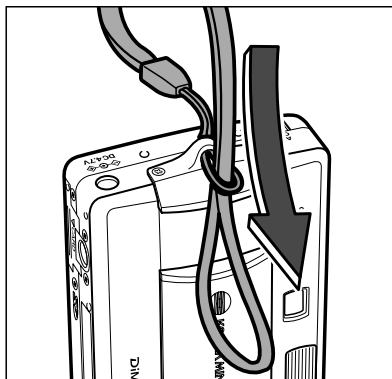
緑色点灯	：撮影できます。
緑色すばやく点滅	：ピントが合いません (P.23)。
オレンジ色ゆっくり点滅	：手ぶれに注意してください（P.23)。
オレンジ色点灯	：カメラが起動中です。
オレンジ色すばやく点滅	：フラッシュ充電中 (P.27)、または電池容量がありません (P.18)。
	：シャッターボタンを押した時に点滅すれば、カードに空きがない (P.23)
	：またはカードがロックされている (P.19) か認識できません。
赤色すばやく点滅	：カードに記録中です。カードを取り出さないでください。

液晶モニター（撮影モード時）

液晶モニター（再生モード時）

基本編

この章では、カメラの準備、フルオートでの静止画 / 動画の撮影・再生・消去・パソコンへのデータの保存・テレビで見るなど最も基本的な操作について説明しています。詳細については必要に応じて、後の応用編・再生編・その他編をご参照ください。

ストラップの取り付け方

1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

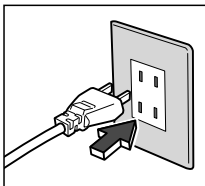
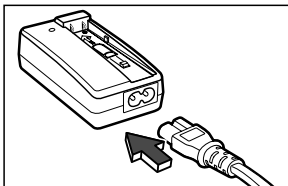
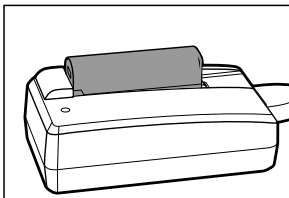
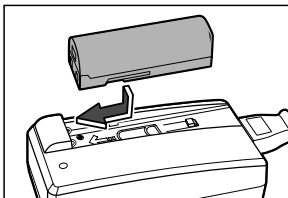
●先端を細くして通してください。

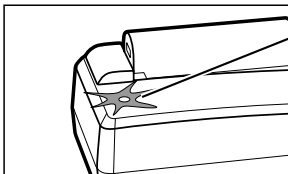
●取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池 NP-700）を使用します。お買い上げの際には電池は充電されていません。付属の充電器 BC-800 で完全に充電してからお使いください。

●充電器 BC-800 に付属の AC コードは、100-120 ボルト、50/60 ヘルツ用です。日本、アメリカ、カナダ、台湾ではそのままお使いになれます。それ以外の地域や国でのご使用については 142 ページをご覧ください。

電池を充電する

1. 電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2. 電池を充電器に取り付けます。

●電池の接点側を充電器の接点に合わせ、充電器のイラストにしたがって電池を取り付けます。

●充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。
●充電時間は約 90 分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了ですので、電池を取り外します。

●電池を上記の取り付けと逆の方法で取り外し、コードをコンセントから抜いてください。

●電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

●電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

●電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。

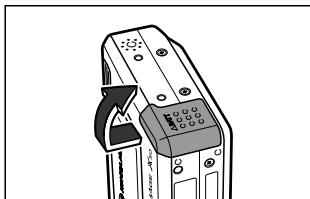
●長期間使用しないときは、少なくとも半年に 1 回、5 分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。

●充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
●所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池の追加購入

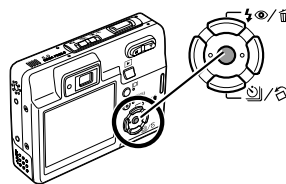
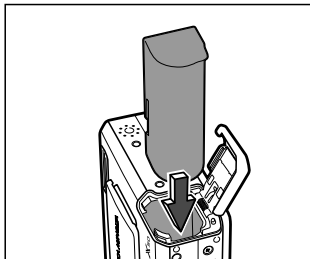
このカメラの専用電池（充電式リチウムイオン電池 NP-700）を追加で購入される場合は、お買い求めの販売店、もしくは、「アフターサービスのご案内」に記載の弊社アフターサービス窓口、または、ホームページにてご購入ください。

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体、または、リサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。
【リサイクル協力店お問い合わせ先】
社団法人　電池工業会　TEL：03-3434-0261　ホームページ：http://www.baj.or.jp/

電池を入れる

1.電池室ふたを左図のようにずらすと、電池室ふたが上にはねあがり開きます。

2.電池の端子側を内側にして図のように入れ、1. と逆の方法で電池室ふたを閉めます。

●最後まで確実に閉めてください。
●長時間電池を抜いたままにしておくと日時の設定が失われ、スライドカバーを開けたり再生ボタンを押して電源を入れたときに、液晶モニターに右のメッセージが現れます。この状態で十字キーの中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面になり、日付・時刻を設定できます *(→P.108)*。
●しばらく待つか、右キーを押して［いいえ］を選んで実行ボタンを押すと、メッセージは消えます。なるべく日付・時刻を設定されることをおすすめします *(→P.108)*。

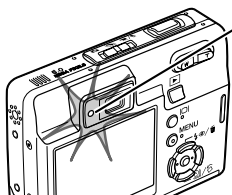
日付/時刻を設定してください
はい　いいえ

電池を取り出すときは、電源が入っていない（＝カメラのスライドカバーが閉じていて液晶モニターに画像が表示されていない状態）のを確認してから、電池を入れるのと逆の要領で取り出してください。

電池容量の確認

スライドカバーを開けて電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。

電池容量は十分です。（3 秒間のみ表示）

電池容量が少なくなりました。これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

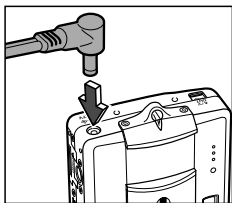
（赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。この状態でも撮影はできます。

オレンジ色ランプが 3 秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるときは、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影、再生、パソコンとの接続時、PictBridge 対応プリンタと接続して画像を印刷時、PC カメラとして使用時には、別売りの AC アダプター AC-4 の使用をおすすめします。

パワーセーブ（操作しないでいると低消費電力状態になります）

約 3 分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に液晶モニターが消灯し、低消費電力状態になります（＝パワーセーブ）。撮影を再開する場合は、シャッターボタンか再生ボタンを押してください。

- パワーセーブまでの時間（初期設定は 3 分）を変更することもできます。→ *「パワーセーブ」P.106*

AC アダプター AC-4（別売り）

屋内など AC 電源が使える場合は、別売りの AC アダプター AC-4 を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

【接続のしかた】

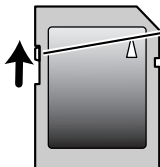
スライドカバーを閉じてカメラの電源を切ります。DC 電源入力端子に AC アダプターのプラグを接続します（左図）。AC アダプターの電源プラグをコンセントに差し込みます。

【取り外しかた】

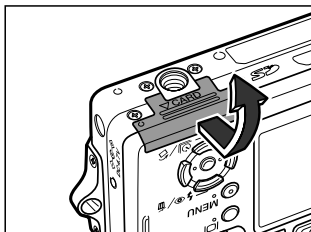
スライドカバーと閉じてカメラの電源を切ります。接続の仕方と逆の順に外します。

カードを入れる

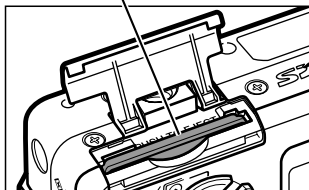
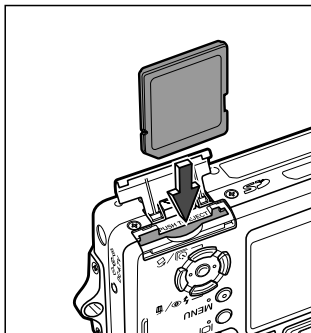
入れ方

画像を記録するには、SD メモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。付属の SD メモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

- SD メモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れるときには、電源が入っていない（＝スライドカバーが閉じていて液晶モニターに画像が表示されていない状態）のを確認してから入れてください。

1. カメラ底面のカードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

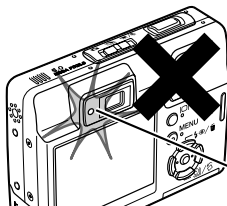
2. カードのラベルをカメラの背面側（接点側をカメラのレンズ側）に向け、図のように接点側をカードスロットに差し込み、カチッと音がするまで押し込みます。

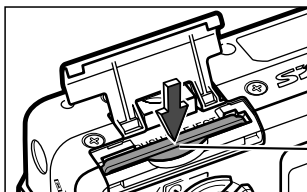
- まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

（次ページへ続く →）

3.カードスロットふたを閉めます。

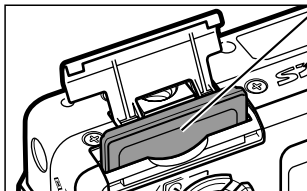
●閉まらない場合は、前の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

●カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画・ボイスレコードモードでは時間表示が、赤色のーーーーになります。
●マルチメディアカードを使用した場合、SD メモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

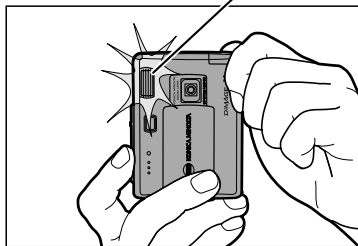
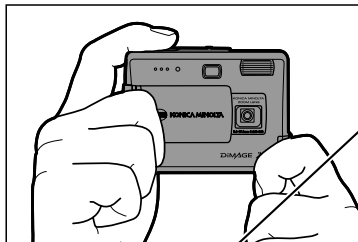
取り出し方

ご注意

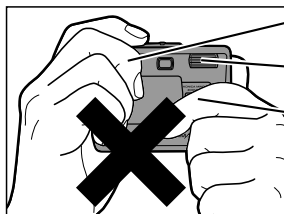
赤色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラの電源が切れている（=スライドカバーが閉じていて液晶モニターに画像が表示されていない状態）のを確認後、カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.カードをカチッと音がするまで中に押し込み、指を離します。

●ロックが外れ、カードが出てきます。

3.カードを取り出し、カードスロットふたを閉めます。

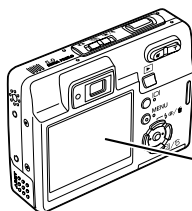
カメラの構え方

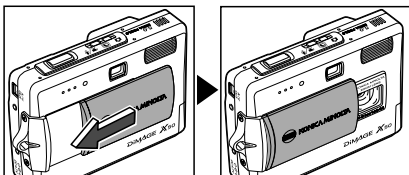
カメラの構え方

手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。ファインダーをのぞいて撮影すると、手ぶれが起こりにくくなります。

- ●縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- ●ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターを OFF にすると電池の消耗を軽減することができます。→ *P.30*
- ●レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- ●動画撮影時 *(→ P.35)*、ボイスメモ *(→ P.64)*、ボイスレコード *(→ P.71)*、アフレコ *(→ P.80)* で録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。

ご注意

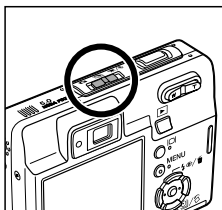
レンズ、マイク、フラッシュに指をかけないように！
失敗の原因となるので注意してください。

正確に構図を決めるときは

正確な構図を決めるときは、ファインダーではなく液晶モニターのご使用をおすすめします。
→詳しくは 30 ページをお読みください。

フルオートで静止画を撮ってみましょう

まずフルオートで気軽に静止画を撮ってみましょう。

1.スライドカバーを開けて、電源を入れます。

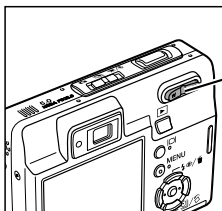
●カチッと止まるところまで、しっかりスライドカバーを開けてください。カメラに電源が入ったことを知らせる音がなり、液晶モニターに画像が表示されます。

シーンセレクターモード

撮影モード

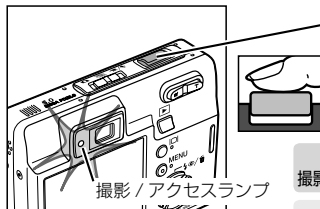
2.モード切り替えレバーをシーンセレクターモード または撮影モード に合わせます。

●シーンセレクターモードでは、シーンに合わせてその撮影にもっともふさわしい設定をカメラが自動的に行います。
●撮影モードでは、メニューでカメラの設定を変えて、シーンセレクターモードよりもさらに多彩な撮影ができます。
●液晶モニター左上に使用のモードのアイコンが表示されます。

シーンセレクターモードの場合

撮影モードの場合

ズーム表示

3.液晶モニターまたはファインダーをのぞいて構図を決め、ズームレバーで大きさを決めます。

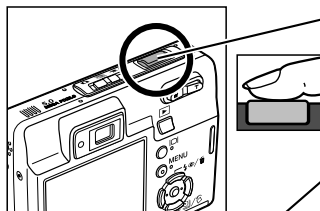
●ズームレバーの「W」側を押すと広角になりシーンをより広く写しこめ、逆に「T」側を押すと望遠になり遠くの被写体をより大きく写し込めます。
●液晶モニターにもズーム表示が表示され、ズーム位置の目安をお知らせします（表示上側が望遠、下側が広角を示します）。
●液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。
※ピントが合わないときは→ P. 28, 29, 50
●シーンセレクターモードの場合は、撮りたいりたいものから10cm以上離れてください。シーンセレクターモードでスーパーマクロを選んだ場合は、6cmまで近づいて撮影できます。→*「スーパーマクロ」P. 26*

4. シャッターボタンを半押します。

●シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。
●シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

撮影 / アクセスランプ

フォーカス表示

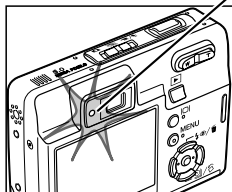
ファインダー横 撮影 / アクセスランプ	液晶モニター 右下の表示	状況
緑色で点灯	白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
緑色ですばやく点滅	赤色の●点灯	ピントが合わない、または、撮りたいものに近づきすぎています *(→ P.28)*。
オレンジ色で ゆっくり点滅		シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
オレンジ色で すばやく点滅	赤色の0000	カードに空きがありません *(→ P.34)*。

●シーンセレクターモードではフルオートシーンセレクター機能が働いて、撮影シーンが自動的に選択されます。*→ P.24*

5. シャッターボタンをさらにゆっくり押し込んで撮影します。

●液晶モニターが ON の状態で、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約 2 秒間液晶モニターに表示させることができます *(アフタービュー、P.66)*。

●撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中は赤色のアクセスランプが点滅します。**その間はカードを取り出さないでください。**

●撮影終了後は、スライドカバーを閉じて電源を切ってください。

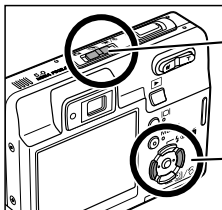
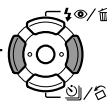
※ピント合わせの詳細については→ P.28 ～ 30
※近くのものを撮る時は→ P.30

（次ページへ続く →）

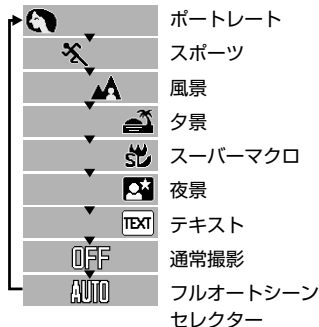
フルオートシーンセレクター

撮影モードレバーがシーンセレクターモードに設定されていると、画面上部に撮影場面を表す絵表示が並びます。そのまま撮影すると、カメラが撮影場面を判断し、自動的にその場にふさわしい設定を行います（フルオートシーンセレクター）。

- シャッターボタンを半押しすると、カメラが選んだ場面（の絵表示）が液晶モニターに表示されます。
- どの場面にも当てはまらなかった場合は、何も表示されず、通常撮影となります。
- シーンセレクターモードでは、左右キーを使って、撮影者が自分で希望のシーンを選ぶことができます（下記の「希望のシーンを選ぶ」をご覧ください）。

ポートレート
スポーツ
風景
夕景
通常撮影（＝通常のプログラム撮影）

希望のシーンを選ぶ

撮影モードレバーがシーンセレクターモードの場合、十字キーの左右キーを押すことで、自分の希望の撮影シーンを選べます。十字キーの右キーを押すと下図の順で、左キーを押すと下図の逆順でシーンが切り替わります。

- 設定されるシーンの絵表示が液晶モニター中央に大きく表示されます。キー操作をやめてしばらくすると、そのシーンに設定されて撮影画面に戻ります。
  ※各シーンの説明は→ P.25 ～ 26

【ポートレート】

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。

【スポーツ】

速く動いているものでもぶれにくいように、またやや遠いところにある被写体をくっきりと描写します。

- フラッシュ光が届かない場合は、フラッシュを使用しないでください。
  ※フラッシュ光の届く距離 → P.27

【風景】

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュ発光禁止 *(→ P.27, 49)* で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに((✋))が現れたとき（ファインダー横の撮影 / アクセスランプがオレンジ色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。

【夕景】

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュ発光禁止 *(→ P.27, 49)* で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに((✋))が現れたとき（ファインダー横の撮影 / アクセスランプがオレンジ色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。

（次ページへ続く →）

フルオートで静止画を撮ってみましょう

【スーパーマクロ】

6cm まで近づいて撮影できますので、小さいものをより大きく撮影できます。

- ●フラッシュでできる影が見苦しくなりますので、フラッシュ発光禁止 *（→ P.27, 49）* で撮影することをおすすめします。接写は暗くなる場合が多いので、照明をあてて十分明るくできない場合は、三脚を使っての撮影をおすすめします。

【夜景】

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。夜景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。

- ●人物のいない夜景のみの場合は、フラッシュ発光禁止 *（→ P.27, 49）* で撮影することをおすすめします。
- ●シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたとき（ファインダー横の撮影 / アクセスランプがオレンジ色でゆっくり点滅したとき）は、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。また夜景ポートレート撮影の場合、撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

【テキスト】

書籍などの印刷物の文字が、背景が明るく仕上がり、文字がくっきりきれいに再現されるように設定されます。

- ●撮影したい文字の背景が明るいほど、効果的に文字を撮影できます。
- ●背景となる明るい部分が、撮影画面一杯になるように構図をとることをおすすめします。

【通常撮影】

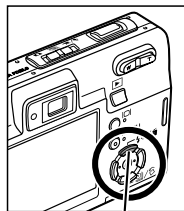
通常のプログラム撮影のモードで、ほとんどのシーンに対応できるモードです。

フラッシュを使ってみましょう

フラッシュモード

フラッシュの光り方を簡単に変えることができます。シーンに合わせてフラッシュを使い分けてみましょう。
十字キーの上キーを押すと、下の順序でフラッシュモード（＝光り方）を切り替えることができます。

- シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横のオレンジ色ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。オレンジ色点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、フラッシュ撮影ができます。
- 初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されている状態）では、電源を入れるたびにフラッシュは自動発光（または赤目軽減自動発光）に戻ります。

※それ以外の設定を保持したいときは、→ P.62 オートリセット「なし」に設定

AUTO …… 自動発光
- 暗くてフラッシュが必要な場合に、フラッシュが自動的に発光します。

▼

AUTO …… 赤目軽減自動発光
- フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。人物のフラッシュ撮影に適しています。必要な時にフラッシュが発光します。

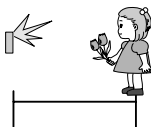
▼

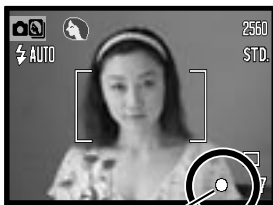
…… 強制発光
- フラッシュは必ず発光します。窓辺の人物撮影や、屋外で帽子で顔が暗くなる場合など、強制発光を使うと人物の暗い部分もフラッシュできれいに撮れます。

▼

…… 発光禁止
- フラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されている場合などに最適です。暗い場所では手ぶれ写真にならないよう、三脚など使用されることをおすすめします。

フラッシュ光の届く距離

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では 3.2 メートル、最望遠側では 1.8 メートルを目安に撮影してください。（撮像感度 AUTO 時）→ *撮像感度　P.60*

広角側：0.2 ～ 3.2 メートル
望遠側：0.1 ～ 1.8 メートル

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても、遠くの景色にはフラッシュ光は届かず暗いままです。

ピント合わせ

フォーカス表示

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　]の中のものにピントが合います。ピントが合うと､ファインダー横の緑ランプと､液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

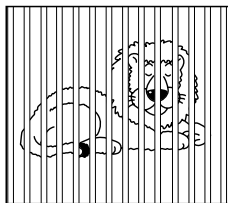
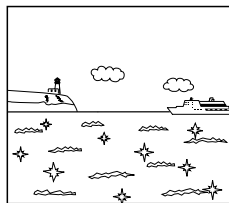
緑ランプがすばやく点滅し、赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから 10cm 以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

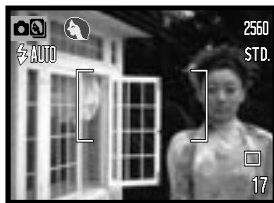
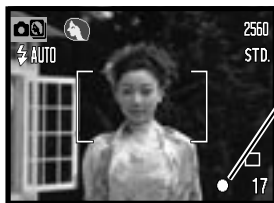
●ピントが合わない場合にそのまま撮影すると、フラッシュが光るときはカメラから 2 メートル離れた場所に、フラッシュが光らないときはカメラから約 20 メートル離れた場所にピントが合います。
●自分の意図する部分に、より厳密にピントを合わせたい場合は、スポットフォーカスフレームをお使いください *(→ P.50)*。

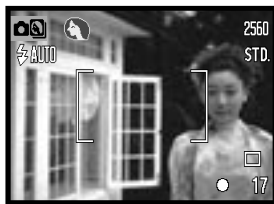
オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁などコントラストのないもの

[　]の中に距離の異なるものが混じっている場合

太陽のような明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに［　］を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

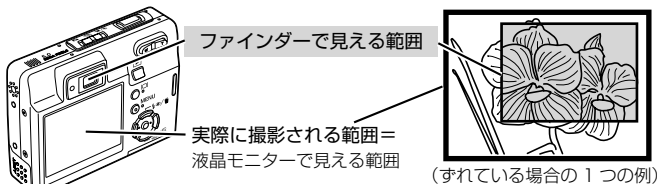
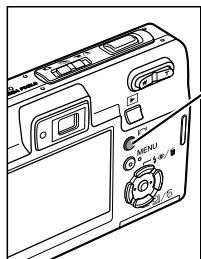
●ピントが合っていること（液晶モニター右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプ点灯）を確認します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

近くのものを撮影するとき

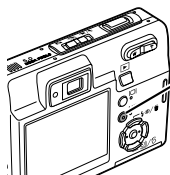
広角側で 1 メートル、望遠側で 3 メートル以内のものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。

- 近くのものを撮影する場合、レンズを通って実際に記録される画像とファインダーを通して見える画像にずれが生じます。距離によってはファインダーで見えていても撮影されない部分が生じる場合があります。

（ずれている場合の 1 つの例）

画面表示の切り替え（撮影モード）

シーンセレクターモード（モード切り替えレバー位置）または、撮影モード（モード切り替えレバー位置）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

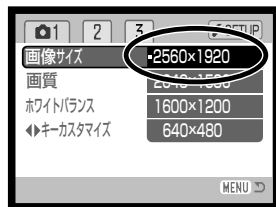
- 液晶モニターを OFF にすると電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。
- 近くのものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。*→近くのものを撮影するとき*
- この使用説明書では、液晶モニター ON・表示あり（左端）の状態で説明しています。
  ※各表示については → P.14
- 液晶モニター ON・（表示なし）のときも、電池容量（P.18）と写し込み表示（P. 65）は表示されます。
- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと液晶モニター ON・表示あり（左端）の状態になります。
  ※それ以外の設定を保持したいときは→ P.62

メニューで設定を変えてみましょう

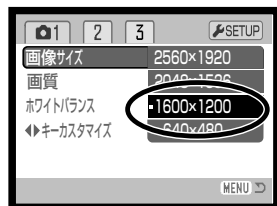
メニューボタンを使って、カメラの様々な機能が設定できます。用途に合わせて、設定を変えて使ってみましょう。詳しい内容は、応用編で説明されています。

1.メニューボタンを押します。

●右図のようなメニュー画面が現れます。

2.十字キーの左右キーで、希望のタブを選びます。

●静止画撮影メニューの設定タブでは、1、2、3から選べます。

3.十字キーの上下キーで、希望の設定項目（画面の左側）を選びます。

●選ばれた項目は、反転します。

4.十字キーの右キーを押して、項目内の内容一覧を表示させます。

5.十字キーの上下キーで、内容一覧から設定したいものを選びます。

●選ばれた項目は、反転します。

6.十字キーの中央の実行ボタンを押して決定します。

7.メニューボタンを押してメニュー画面を閉じます。

（次ページへ続く →）

フルオートで静止画を撮ってみましょう

この説明書では、以降、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。例は、前ページの設定内容です。

[MENU]→[📷1]→[画像サイズ]→[右側へ]→[1600x1200]→[実行]→[MENU]

静止画撮影時の設定内容一覧

静止画撮影時にメニューボタンを押して設定できる内容は以下の通りです。記されている参照ページに詳しい内容が説明されていますので、必要に応じてご覧ください。各項目の初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されているもの）は、■■■ で記された内容です。

📷1 タブ

項目	参照	設定内容
画像サイズ	→P. 55	**2560x1920**
		2048x1536
		1600x1200
		640x480
画質	→P. 56	ファイン
		スタンダード
		エコノミー
ホワイトバランス	→P. 58	**AUTO**
		昼光
		曇天
		白熱灯
		蛍光灯
◀▶キーカスタマイズ	→P. 58	露出補正
		ホワイトバランス
		撮像感度
		カラーモード
		なし

●ホワイトバランスと左右キーカスタマイズは、シーンセレクターモード時は設定できません。

📷2 タブ

項目	参照	設定内容
撮像感度	→P. 59	ISO400
		ISO200
		ISO100
		ISO50
		AUTO
測光モード	→P. 61	**多分割**
		スポット
露出補正	→P. 61	± 2.0(1/3 ステップ)
		± 0.0
オートリセット	→P. 62	**あり**
		なし

●撮像感度と測光モードは、シーンセレクターモード時は設定できません。

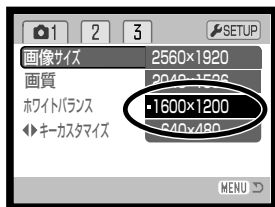
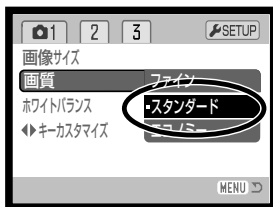
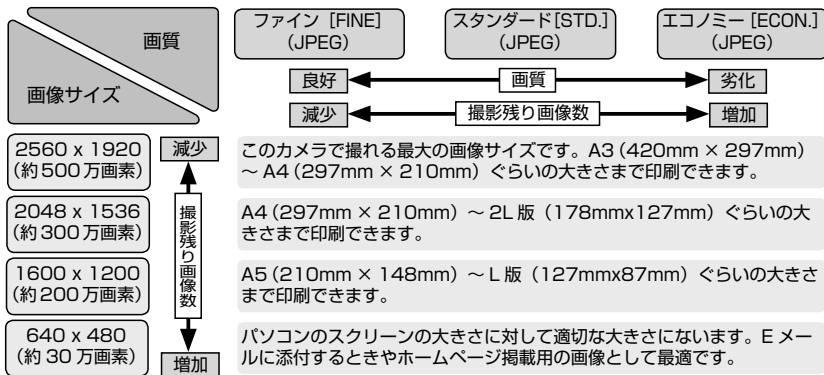
📷3 タブ

項目	参照	設定内容
カラーモード	→P. 63	**カラー**
		モノクロ
		セピア
ボイスメモ	→P. 64	あり
		なし
日付写し込み	→P. 65	年月日
		月日時刻
		なし
デジタルズーム	→P. 65	あり
		なし
アフタービュー	→P. 66	あり
		なし

●カラーモードは、シーンセレクターモード時は設定できません。

画像サイズと画質

デジタル画像はその緻密さに応じて下記ような画像サイズが選べます。印刷する場合、大きなサイズで撮影しておくほどきれいに印刷できますが、ファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。
一方、画質も圧縮率の差により下記のように 3 段階から選べます。パソコンで取り込んで編集するときなどはできるだけ圧縮率の低い（＝画像の劣化の少ない）「ファイン」を選ぶことをおすすめします。例えば、E メールに添付する場合は、ファイルサイズが一番小さい、640x480 のサイズで画質は「エコノミー」などが適しています。

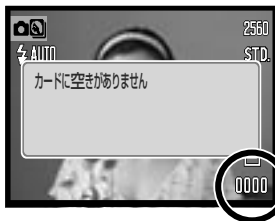
下の表を参考にしながら、P.31 の「メニューで設定を変えてみましょう」の手順に従って、画像サイズ／画質の項目を表示させ、希望の内容を選び設定します。

画像サイズの場合

画質の場合

ここでの印刷は、印刷解像度 150dpi ～ 300dpi の場合を前提としています。

（次ページへ続く →）

撮影残り画像数

カードを入れて、カメラの電源を入れ撮影モードにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、あと何枚撮影できるかの枚数）が表示されます。左図の例では、「残り 17 枚」撮影できます。

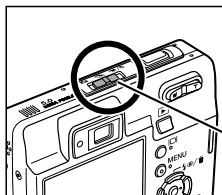
１枚のカードに記録できる画像数は、「カードの容量」や「設定されている画像サイズや画質」によって異なります。付属のカード（16MB）で、初期設定（画像サイズ＝ 2560x1920、画質＝スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約 11 枚です。

●異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行った場合は、撮影できる画像数が大きく変わります。　*※詳細は→ P.57*

●左図のように「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードが画像がいっぱいでこれ以上記録できません（シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横のオレンジ色ランプがすばやく点滅します）。カードを交換する、（カードに記録した画像をパソコンなどに取り込んだ後）カード内の画像を消去する、より小さい画像サイズを選ぶ、より圧縮率の高い画質を選ぶ、などを行ってください。

※カードを交換する→ P.19
※撮った画像をパソコンに保存する→ P.41
※不要な画像を消去する→ P.40, 78
※画像サイズ・画質を変更する→ P.55 〜 57

●ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数の表示が変化しない場合もあります。

動画を撮ってみましょう

このカメラの初期設定では、画像サイズは 320x240、フレームレートは 15fps で、カードの容量がなくなるまで連続して音声ありの動画撮影ができます。
フレームレートなど、メニュー画面で変更できます。→ *P.69*

1. モード切り替えレバーを動画／ボイスレコードモード に合わせます。

●液晶モニター画面左上に動画モードのアイコン、右上に画像サイズとフレームレート、右下に撮影可能な残り時間の目安が表示されます。

動画／ボイスレコードモード

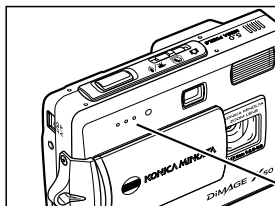
2. シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合うと、画面右下に白い○（＝ピントが合っている状態を示します）が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで動画撮影を開始します。

●撮影中は● Rec が表示され、残り時間が減ってきます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が 10 秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。

4. 撮影を止める時は、もう一度シャッターボタンを押します。

●残り時間が 0 になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

●動画撮影時のピント位置および露出は、動画撮影開始時に固定されます。
●カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カードの空き容量に残りがあっても途中で撮影が終了していまうことがあります。データ転送速度 10MB/ 秒以上の SD メモリーカードのご使用をおすすめします。
●電池の残り容量が少ないとき（画面に赤色の が点灯している場合）は、動画撮影ができません。

●カメラ前面のマイクを指やストラップなどでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。→ *P. 21 カメラの構え方*

（次ページへ続く →）

動画撮影時の設定内容一覧

動画撮影時にメニューボタンを押して設定できる内容は以下の通りです。記されている参照ページに詳しい内容はが説明されていますので、必要に応じてご覧ください。設定方法は、「メニューで設定を変えてみましょう」*(→P.31)* を参照ください。

各項目の初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されているもの）は、■■■ で記された内容です。

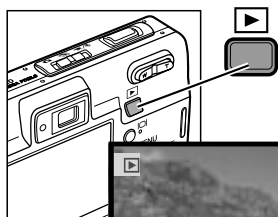
1 タブ

項目	設定内容
/切り替え *→P. 67*	動画
	ボイスレコード
フレームレート *→P. 69*	30fps
	15fps
ナイトムービー *→P. 69*	ON
	OFF

2 タブ

項目	設定内容
ホワイトバランス *→P. 70*	AUTO
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
露出補正 *→P. 70*	± 2.0(1/3 ステップ)
	± 0.0
カラーモード *→P. 70*	カラー
	モノクロ
	セピア

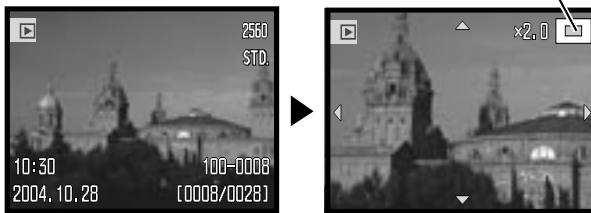
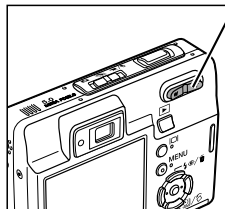
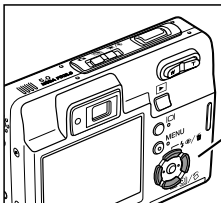
撮った画像を再生してみましょう

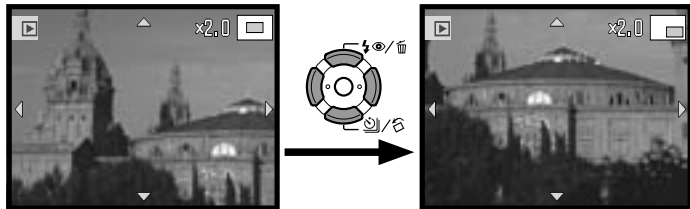
撮影した静止画や動画を再生するには、再生ボタンを使います。
カメラ前面のスライドカバーが閉じて電源が切れている状態でも、再生ボタンを押すと、再生モードに入れます。

1. 再生ボタンを押します。

●液晶モニターに撮影された最新の画像が表示されます。

2. 十字キーの左右キーを押して、見たい画像を選びます。

3. ピントが合っているかなど確認するため、画像を拡大したいとき（=ズームイン）は、ズームレバーの［T］を押します。

●液晶モニターに拡大された画像が表示され、画面の右上に、現在の拡大倍率とその右に元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ（白は元画像全体、黄色は拡大再生されている部分）が現れます。

（次ページへ続く →）

4.拡大された画像の見たい部分を移動（=スクロール）したい場合は、十字キーの上下左右キーの任意のキーを押します。

●上下左右へ移動したい場合は、各々上下左右キーの任意のキーを押します。すなわち、現在よりも右の画面が見たい場合は、右キーを押します。
●任意の方向のキーを押すことで、希望の画面が表示され、インジケータにも現在の表示部分が反映されます。

5. 画像を元の大きさの方にする（=ズームアウト）には、ズームレバーの［W］を押します。

●違う画像を表示するには元の大きさにもどり（=ステップ 2. の再生の初期画面）、左右キーを押して選択してください。
●元の大きさにすぐにもどりたい場合は、十字キーの中央の実行ボタンかメニューボタンを押します。

6. 再生を終わるときは、もう一度再生ボタンを押します。

●撮影モードを使っていた場合は直前の撮影モード、スライドカバーを閉じていた場合は電源が切れます。

動画を再生するには

動画ファイルは左図のように、再生スタート画面が表示されます。

1. 十字キーの実行ボタンを押して、動画再生を始めます。

●下図のように、動画の再生が始まります。
●再生の一時停止・再開は、実行ボタンを押します。
●巻き戻しは左キーを、早送りは右キーを押し続けます。
●音量を上げる場合は上キー、下げる場合は下キーを押します。
●メニューボタンを押すと、再生スタート画面に戻ります。

2.再生を終わるときは、もう一度再生ボタンを押します。

※動画再生の詳しい説明→ P.75

再生時の設定内容一覧

再生時にメニューボタンを押して設定できる内容は以下の通りです。記されている参照ページに詳しい内容が説明されていますので、必要に応じてご覧ください。設定方法は、「メニューで設定を変えてみましょう」*(→P.31)* を参照ください。

各項目の初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されているもの）は、▒▒ で記された内容です。

▶1 タブ

項目	参照	設定内容
消去	→P. 78	このコマ
		└このボイスメモ
		全コマ
		コマを指定
アフレコ	→P. 80	実行する
プロテクト	→P. 81	このコマ
		全コマ
		コマを指定
		全コマ取り消し
画像合成	→P. 83	実行する

▶2 タブ

項目	参照	設定内容
スライドショー	→P. 85	実行する
コマ送り効果	→P. 85	ランダム（初期設定）
		なし
トリミング	→P. 86	実行する
静止画切り出し	→P. 87	実行する
動画編集	→P. 89	実行する

▶3 タブ

項目	参照	設定内容
DPOF 指定	→P. 92	このコマ
		全コマ
		コマを指定
		全コマ取り消し
日付プリント	→P 94	あり
		なし（初期設定）
インデックスプリント	→P. 94	作成する
		作成しない
メール画像作成	→P. 95	このコマ
		コマを指定

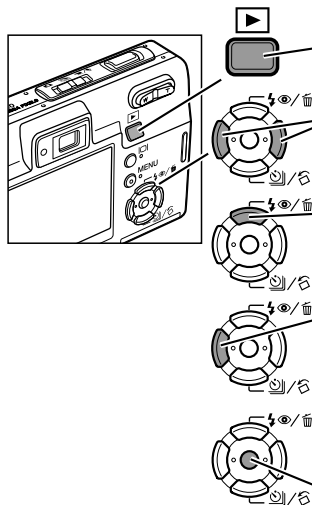
※ SD メモリーカードのライトプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているとき *(→P.19)* は、再生モードメニューはすべて設定できません（項目を選べません）。

画像を手早く消去してみましょう

基本編

画像を１コマずつ簡単に消去できます。撮影後再生したときに、失敗した写真などを手早く消去する場合に便利です。

ご注意

いったん消去した画像は復活させることはできませんので、ご注意ください。

1. 再生ボタンを押します。

●液晶モニターに撮影された最新の画像が表示されます。

2. 十字キーの左右キーで消去したい画像を選び液晶モニターに表示させます。

3. 十字キーの上キーを押します。

●右の画面が現れます。

⚠このコマを消去しますか？

はい　いいえ

4. 左キーを押して［はい］を反転させて選びます。

●消去しない場合は、右キーで［いいえ］を選んで実行キーを押すか、上キーをもう一度押して消去操作を終了します。

●画像にプロテクト *（→ P. 81）* がかかっていて消去できない場合は、右の画面が現れます。

はい　いいえ

⚠プロテクトされています

5. 十字キーの実行ボタンを押して、画像を消去します。

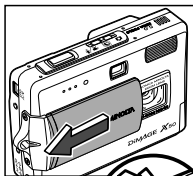
●画像が消去されます。

●消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、2. ～ 4. の操作を繰り返します。

●1. の再生ボタンを押す前にスライドカバーを開けて撮影モードを使っていた場合は、再生ボタンを押すと、撮影モードに戻ります。

※複数の画像をまとめて消去するときは→ P.78

パソコンに画像を保存してみましょう

撮影した画像をパソコンに保存してみましょう。ハードディスクに無事に保存できれば、カード内の画像を消去し空き容量を確保して、次の新しい撮影（＝画像の保存）ができます。
ここではパソコンのハードディスクに保存する方法（Windows XP(Home/Professional）を例にあげています。その他の、Windows2000Professional/Me/98/98SE や Mac OS をお使いの方は P.114 をご参照ください。
パソコンのハードディスクに保存した後は、ハードディスクが壊れるなどの不測の事態に備えて、ハードディスクの画像データをなるべく早めに他のメディア（CD-R/RW、DVD-R/-RW/-RAM、MO など）にバックアップされることをおすすめします。

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラのスライドカバーを開けて、電源を入れます。

●モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

3. USB ケーブルの大きい方のコネクタをパソコンの USB ポートに差し込みます。

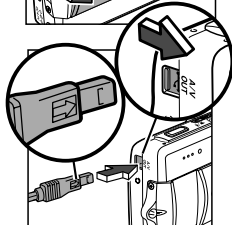
●USB ケーブルは、必ず付属の USB ケーブル USB-3 をご使用ください。
●奥まで確実に差し込んでください。

4. カメラの USB/AV 出力端子のカバーを左図のように開けて、USB ケーブルの小さい方のコネクタを差し込みます。

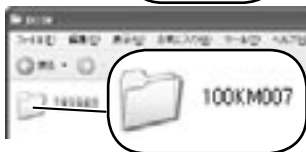
●奥まで確実に差し込んでください。
●USB ケーブルのコネクタが USB/AV 出力端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の ⇨ マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

● USB 接続は、接続する際には、カメラとパソコンの電源を入れたまま行えますが、取り外す際には、必ず P.43、116 の「USB 接続の外し方」の手順に従って外してください。

5. パソコンの画面に、左の画面が現れますので、[フォルダを開いてファイルを表示する］を選び、[OK］をクリックします。

●この画面が現れないときは、画面左下の［スタート］→［マイコンピュータ］→［リムーバブルディスク］を開いてください。

（次ページへ続く →）

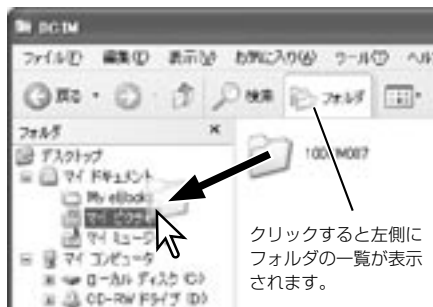
6. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

●リムーバブルディスクの後のアルファベット（左図の例では F:）は、ご使用のパソコンによって異なります。

7. [100KM007] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM007］です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
●フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

8. 保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンの希望のフォルダにコピーします。

●フォルダごとコピーする場合は、［100KM007］等のフォルダを、まるごと［マイ ドキュメント］や［マイ ピクチャ］等の希望のフォルダに、ドラッグ＆ドロップでコピーします。

【フォルダごとコピーする場合】

［100KM007］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

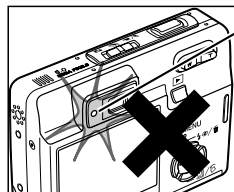
【ファイルごとにコピーする場合】

［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

●画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

●コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、「元の画像を上書きしてもいいですか」の確認のメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

USB 接続の外し方

必要な画像をパソコンに保存した後は、必ず以下の手順で USB 接続を外してください。誤った手順で外しますと大事なデータが破損する場合があります。

1. カメラのファインダー横のアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. パソコンの画面の右下のタスクバーに表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

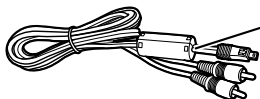
●「USB 大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します)」または「USB ディスクの停止」の表示が現れます。

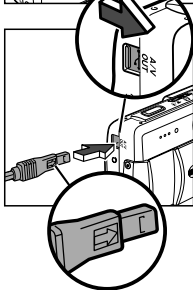
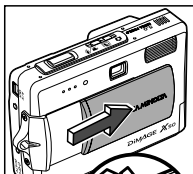
3. 表示を左クリックします。

●「安全に取り外しできる」というメッセージが現れます。

4. カメラのスライドカバーを閉じて、カメラの電源を切ります。

5.USB ケーブルを取り外します。

テレビで見てみましょう

付属の AV ケーブル AVC-500 でカメラとテレビを接続し、撮った画像をテレビに映して見ることができます。

●AV ケーブルは、必ず付属の AVC-500 をご使用ください。

1.スライドカバーを閉じて、カメラの電源を切ります。また、テレビの電源も切ります。

2.AV ケーブルの黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

3. カメラの USB/AV 出力端子のカバーを図のよう開け、AV ケーブルのもう一方（⇨ マークが付いている）のコネクタを、USB/AV 出力端子に差し込みます。

●AV ケーブルのコネクタが USB/AV 出力端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の ⇨ マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

●詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. 再生ボタンを押します。

●スライドカバーが閉じていても再生ボタンを押すと、カメラの電源が入り、再生モードになります。

●この操作でカメラの液晶モニターに現れる画像がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様の操作ができます。

●音声はテレビ側から再生されます。カメラ背面の液晶モニターは表示されません。

●テレビに映る画像はパソコンの画像に比べると、システムの違いにより画質が多少劣化します。

※再生操作の詳しい説明は→ P. 72

●この操作上記の操作で万一映像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。

※ビデオ出力形式の切り替え→ P.109

6. 再生を終えたら、もう一度再生ボタンを押して、カメラの電源を切ります。

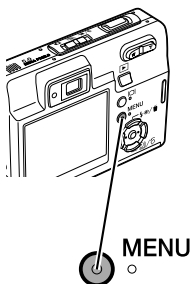
7. テレビの電源を切ります。

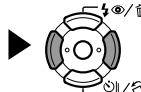
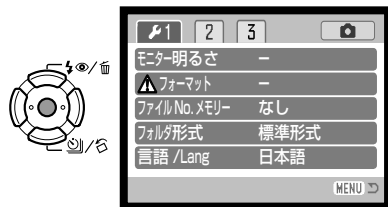
8.AV ケーブルをカメラ／テレビから外します。

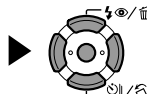
プリントしてみましょう（PictBridge 対応プリンタの場合）

このカメラは PictBridge（ピクトブリッジ）対応しており、パソコンを介せず PictBride 対応のプリンタと直接つないで、画像を素早く簡単に印刷できます（＝ダイレクトプリント）。ここではこの PictBridge 機能によるダイレクトプリントについて簡単に説明します。

カメラを PictBridge モードにする

セットアップメニューで、[USB 接続] を [PictBridge] に設定します。静止画のダイレクトプリントができます。

1. メニューボタンを押します。

●上図のようなメニュー画面が現れます。

2. 十字キーの左右キーで、画面右上の SETUP を選んで反転します。

3. 十字キーの実行ボタンを押します。

●セットアップ画面（上図）が表示されます。

4. P.31 の手順に従って、3 の[USB 接続] で [PictBridge] を選び、実行ボタンを押して設定します。

（次ページへ続く →）

カメラとプリンタを接続する

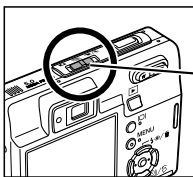
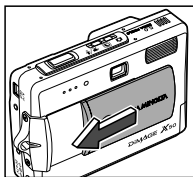
●プリントの途中でカメラの電池がなくなると、印刷（プリント）が中断されます。フル充電した電池、または別売のAC アダプター AC-4 の使用をおすすめします。

1.プリンタの電源を入れます。

2.用紙設定など、プリンタ側の設定を行います。

●詳しい設定方法は、プリンタの使用説明書をご覧ください。

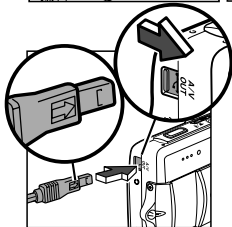
●日付写し込み（→ P.65）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行わないでください。

●用紙サイズや印刷される画像のレイアウト、印刷の品質や画像といっしょに印刷される情報の種類は、ダイレクトプリントメニュー画面でカメラ側からも設定・変更できます。→ P.130 ～ P.135

3.カメラにカードを入れ、スライドカバーを開けて電源を入れます。

●モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

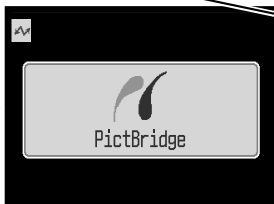
4.USB ケーブルの大きい方のコネクタを、プリンタの USB ポートに差し込みます。

●プリンタ内蔵の USB ポートに直接つないでください。USB ハブ経由で接続すると正常に動作しない場合があります。

●奥まで確実に差し込んでください。

5.USB/AV 出力端子のカバーを図のように開け、USB ケーブルの小さい方のコネクタを USB/AV 出力端子に差し込みます。

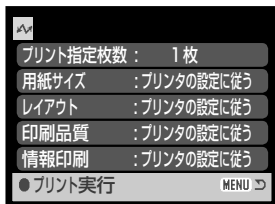
●奥まで確実に差し込んでください。

●USB ケーブルのコネクタが USB/AV 出力端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の ⇨ マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

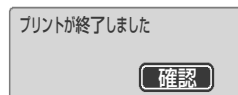
●正しく接続されると、「USB 接続中」「PictBridge」などのメッセージが現れた後、プリントの初期画面になります。

表示中の画像 1 コマを印刷する

ここでは、プリントしたい画像を選び 1 コマを印刷する方法を説明します。ほかにも細かな設定をしてプリントが楽しめますので、ダイレクトプリントの詳しい説明をご覧ください。→ *PictBridge 対応プリンタで印刷する P.128 ～ 135*

1. 十字キーの左右キーでプリントしたい画像を選び、上下キーで枚数を指定して実行ボタンを押します。

- 上下キーで枚数の指定ができます（最大 20 枚まで）。上キーを押すと枚数が増え、下キーを押すと枚数が減ります。
- 印刷設定確認画面（左下図）が表示されます。
- 用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報印刷についての詳細は、P.132 ～ 134 をご覧ください。

2. もう一度実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は以下の画面が表示されます。

- プリントが終了したら左のメッセージが現れます。

3. 実行ボタンを押してプリントを終了します。

4. プリント作業が終わり、撮影モードに戻る場合は、P.45, 109 の手順に従って、セットアップメニューで［USB 接続］の設定を、［PictBridge］から［カードリーダー］に戻してください。

※印刷するコマと枚数をあらかじめ指定してプリントする場合→ P. 128
※ダイレクトプリントのメニューの詳しい説明→ P. 130
※一括枚数指定やインデックスプリントについて→ P. 131 ～ 132

応用編

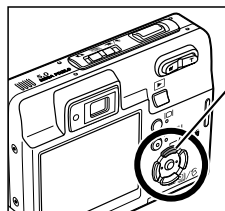
この章では、フラッシュ、測光方式、ドライブモード、動画、ボイスレコード、撮影の各種設定など、撮影についての詳しい説明をしています。

フラッシュの光り方を設定する

フラッシュモード

フラッシュの光り方を、自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止のうちから選んで設定することができます。

- シャッターボタンを半押ししたときに、ファインダー横のオレンジ色ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。オレンジ色点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを半押しすると緑ランプが点灯し、フラッシュ撮影ができます。
- 初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されている状態）では、オートリセットが「あり」に設定されているので、電源を入れるたびにフラッシュは自動発光 AUTO（赤目軽減自動発光 AUTO を選んで撮影した後は、赤目軽減自動発光）に戻ります。

※それ以外の設定を保持したいときは、→ P. 62 オートリセット「なし」

シーンセレクターモード（ ）、または、撮影モード（ ）で、十字キーの上キーを押すたびに、左下図の順序でフラッシュの光り方が切り替わります。

- 設定されるフラッシュの光り方が液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのフラッシュの光り方に設定されて撮影画面に戻ります。設定されたフラッシュモードは、液晶モニター左上のフラッシュモードの形で確認できます。

AUTO 自動発光
▼
AUTO 赤目軽減自動発光
▼
強制発光
▼
発光禁止

AUTO 自動発光

暗い場所などフラッシュが必要なときに自動的にフラッシュが発光します。

AUTO 赤目軽減自動発光

暗いところで人物のフラッシュ撮影をすると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。この赤目軽減自動発光モードでは、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

●シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
●シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

強制発光

フラッシュは必ず発光します。背景が明るい窓際の人物撮影、屋外の木陰での人物撮影、晴天時に帽子をかぶった人物の顔の撮影など、暗くつぶれてしまいがちな場合に便利です。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

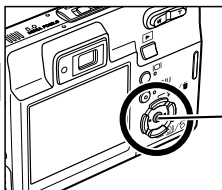
発光禁止

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場合、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影する場合、フラッシュ発光させるのではなくその場所の照明光の雰囲気で撮影したい場合などでお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

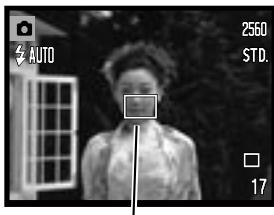
●暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れ、ファインダー横の撮影 / アクセスランプがオレンジ色でゆっくり点滅してお知らせします）。

ねらいの部分にピントを合わせる（スポット AF）

通常はワイドフォーカスフレームでカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。自分の意図する部分により厳密にピントを合わせたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせることもできます。

実行ボタン

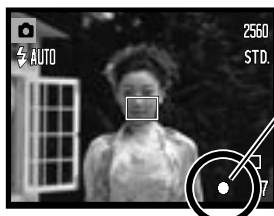
1. シーンセレクターモード（）、または、撮影モード（）で、十字キー中央の実行ボタンを 約 1 秒間押し続けます。

●液晶モニター ON（表示あり）の状態で、液晶モニターにスポットフォーカスフレームが現われます。

●もう一度上下レバー中央の実行ボタンを約 1 秒間押し続けるとワイドフォーカスフレームにもどります。

スポットフォーカスフレーム

●フォーカスフレームの切り替えは液晶モニターを使って行なってください。液晶モニター OFF のときは切り替えできません。

●液晶モニター ON（表示なし）で切り替え操作した場合は、液晶モニター ON（表示あり）に画面が変わり、スポットフォーカスフレームが表示されます。その後、液晶モニターボタンを押して液晶モニター ON（表示なし）にもどすと、スポットフォーカスフレームの表示は消えますが、実際のピント合わせはスポットフォーカスフレームで行われます。

●液晶モニター OFF のときは、液晶モニター ON（表示あり）時に設定したフォーカスフレームでピント合わせが行われます。

2. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

●ピントが合うと、液晶モニターの右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

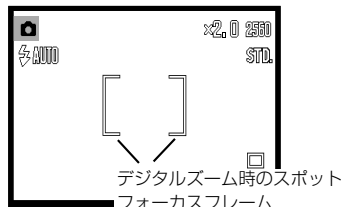
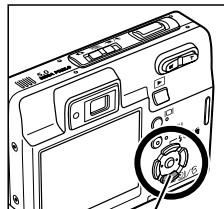
3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ワイドフォーカスフレームになります。*スポットフォーカスフレームの設定を保持したいときは→ P.62　オートリセット「なし」*

●動画撮影時 *（→ P. 68）*もこの機能はお使いいただけます。動画撮影前にスポット AF でピントを合わせてから撮影することができます。

●デジタルズーム時 *（→ P. 65）*のスポットフォーカスフレームは右図のように変わります。

デジタルズーム時のスポットフォーカスフレーム

応用編

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマーなど、シャッターの切り方の種類を選べます。

シーンセレクターモード（ ）、または、撮影モード（ ）で、十字キーの下キーを押すたびに、左下図の順序でドライブモードが切り替わります。

1 コマ撮影：シャッターボタンを押すごとに、1 枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー：シャッターボタンを押して約 10 秒後に撮影されます。

連続撮影：シャッターボタンを押し続けている間、連続撮影されます。

UHS* 連続撮影：毎秒約 11 コマ速度で、最高 11 コマまでの連続撮影ができます。　*UHS=Ultra High Speed（ウルトラハイスピードの略）

マルチフレームショット：9 回の連続したコマを、9 分割した 1 枚の画像に撮影できます。

- 設定されるドライブモードが液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのドライブモードに設定されて撮影画面に戻ります。設定されたドライブモードは、液晶モニター左上のドライブモードの形で確認できます。
- オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は 1 コマ撮影になります。

※それ以外の設定を保持したいときは→ P.62　オートリセット「なし」

1 コマ撮影

このモードでは、シャッターボタンを押すごとに、1 枚ずつ撮影されます。初期設定は 1 コマ撮影です。

セルフタイマー

このモードでは、シャッターボタンを押してから約 10 秒後にシャッターが切れて撮影されます。撮影者もいっしょに写真に入るときなどに便利です。

1. 上記のように十字キーの下キーを押して、セルフタイマーを選びます。

- セルフタイマーが設定されると、液晶モニター右下に が表示されます。

（次ページへ続く →）

2.シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。

3.シャッターボタンを押し込みます

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます *(→ P.106)*。
- 作動中のセルフタイマーを止めるには、ズームレバーを押すか、メニューボタンを押してください。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

このモードでは、シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。毎秒約 1.9 コマの連続撮影ができます（画像サイズ 2560x1920、日付写し込み「なし」設定時）。

1.P.51 の手順に従い、十字キーの下キーを押して、連続撮影を選びます。

- 連続撮影が設定されると、液晶モニター右下に ⧉ が表示されます。

2.シャッターボタンを押し続けて撮影します。

- フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
- ピント位置と露出は 1 コマ目で固定されます。
- 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
- 連続撮影できる枚数には、カメラのメモリ容量による上限があります（約 4 枚）。これらの値は、画像サイズや画質、被写体によって異なりますので、あくまで目安とお考えください。

UHS 連続撮影

このモードでは、シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約 11 コマの速度で連続撮影され、最高 11 枚まで撮影できます。

1. P.51 の手順に従い、十字キーの下キーを押して、UHS 連続撮影を選びます。

●UHS 連続撮影が設定されると、液晶モニター右下に が表示されます。

2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

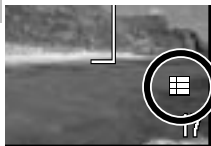
UHS 連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後データをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、

●撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影ができません。
●カメラ内部のメモリーには容量に限りがあるため、UHS 連続撮影は 11 枚までしかできません。この値は画質や被写体によって異なりますので、あくまで目安とお考えください。
●画像サイズは 1280x960 画素に固定されます。
●フラッシュ撮影はできません。自動的に発光禁止になります。
●ピント位置と露出は 1 コマ目で固定されます。
●UHS 連続撮影時にはデジタルズーム*(→ P. 65)*はできません。また、デジタルズーム時に UHS 連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
●電池の残量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、UHS 連続撮影ができません（シャッターが切れません）。
●UHS 連続撮影の画質は、他の撮影画像と比べるとやや劣化することがあります。
●強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。これらの現象は、再生した画面で確認できます。

ドライブモード

（次ページへ続く →）

マルチフレームショット

9 回の連続したコマを、9 分割した 1 枚の画像に撮影することができます。
人の表情の変化などを撮影して楽しむことができます。

1. P.51 の手順に従い、十字キーの下キーを押して、マルチフレームショットを選びます。

●マルチフレームショットが設定されると、液晶モニター右下に ⊞ が表示されます。

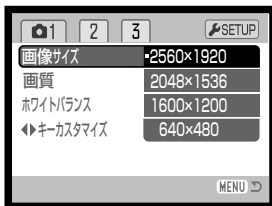
2. シャッターボタンを押して撮影します。

●毎秒 1.8 コマで、計 9 コマ撮影されます。
●フラッシュは自動的に発光禁止になります。
●手ぶれの少ない、適正な露出のマルチフレームショットを撮影するには、明るいところでの撮影をおすすめします。
●マルチフレームショットでは、シャッター音を「音 1」や「音 2」に設定していても、シャッター音はなりません。

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。下図メニュー画面のように、４通りの中から選ぶことができます。

[MENU]→[1]→[画像サイズ]→[右側へ]→[希望のサイズ]→[実行]→[MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32)）

●液晶モニター右上に、現在設定されている画像サイズが表示されます。例えば、2560x1920のサイズが設定されている場合は最初の2560が表示されます。

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ 2560 × 1920 画素の場合、画像は横に 2560、縦に 1920 に分割され、その 1 点 1 点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として 1 つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。
画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1 枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。
このカメラでは、画像サイズを以下の４通りから選ぶことができます。

2560 × 1920	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする (*1) 場合におすすめします。約 500 万画素の画像が撮影できます。 (*1) A4 (297mm × 210mm) ～ A3 (420mm × 297mm) 程度
2048 × 1536	パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする (*2) 場合におすすめします。約 310 万画素の画像が撮影できます。 (*2) 2L 版 (178mm × 127mm) ～ A4 (297mm × 210mm) 程度
1600 × 1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする (*3) 場合におすすめします。約 190 万画素の画像が撮影できます。 (*3) L 版 (127mm × 89mm) ～ A5 (210mm × 148mm) 程度
640 × 480	1 枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、E メールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

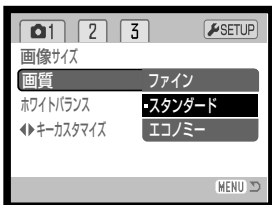
ここでいうプリントとは、印刷解像度 150dpi ～ 300dpi の場合を指しています。

画質

画像の品質（＝記録の際の圧縮率）を指定できます。下図メニュー画面のように、3 通りから選ぶことができます。

[MENU] → [1] → [画質] → [右側へ] → [希望の画質] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

応用編

●液晶モニター右上に、現在設定されている画質が表示されます。ファインは FINE、スタンダードは STD.、エコノミーは ECON. と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン の順に高画質になりますが、高画質になるほど 1 枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

<table>
<tr><th>表示</th><th>ファイル形式</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>ファイン
（FINE）</td><td>JPEG
（圧縮率小）</td><td rowspan="3">画像が JPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1 枚のカードに記録できる枚数が増えます。
JPEG 形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行う場合、画質の設定は慎重に行ってください。一般的な目安は以下のとおりです。
プリント（印刷）する場合　→スタンダード、ファイン
画像を加工する場合　→ファイン
E メールに添付する場合など →エコノミー</td></tr>
<tr><td>スタンダード
（STD.）</td><td>JPEG
（圧縮率中）</td></tr>
<tr><td>エコノミー
（ECON.）</td><td>JPEG
（圧縮率大）</td></tr>
</table>

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって 1 枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属の 32MB SD メモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

画質

ファイルサイズ

	2560 × 1920	2048 × 1536	1600 × 1200	640 × 480
エコノミー	約 650KB	約 440KB	約 290KB	約 90KB
スタンダード	約 1.2MB	約 820KB	約 520KB	約 130KB
ファイン	約 2.4MB	約 1.6MB	約 1.0MB	約 200KB
動画（320×240）	約 670KB/ 秒（30fps）/ 約 340KB/ 秒（15fps）			
音声 *	約 8KB/ 秒			

* ボイスレコード、ボイスメモ、アフレコ

同梱の 16MB SD メモリーカード使用時の撮影画像数

	2560 × 1920	2048 × 1536	1600 × 1200	640 × 480
エコノミー	約 21 枚	約 31 枚	約 47 枚	約 148 枚
スタンダード	約 11 枚	約 17 枚	約 27 枚	約 99 枚
ファイン	約 5 枚	約 8 枚	約 14 枚	約 68 枚
動画（320×240）	約 40 秒（15fps）/ 約 21 秒（30fps）			
ボイスレコード	約 30 分 28 秒			

ホワイトバランス（シーンセレクターモードでは設定できません）

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

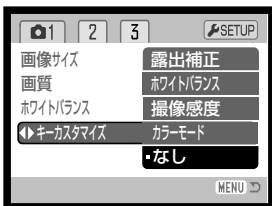
[MENU] → [📷1] → [ホワイトバランス] → [右側へ] → [希望のホワイトバランス] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

●AUTO（オート）以外を選択すると、液晶モニター左横に該当するマークが以下の通り表示されます。
- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯

●複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。
●オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定は AUTO になります。
●左右キーカスタマイズでホワイトバランスを設定すると、左右キーを押すだけでホワイトバランスの設定を切り替えることができます。*詳しくは→ P.58*
※ AUTO 以外の設定を保持したいときは→ P.62 オートリセット「なし」

キーカスタマイズ（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時によく使う 4 つの機能の内、いずれか 1 つの設定変更を十字キーの左右キーに割り当てることができます（＝キーカスタマイズ）。左右キーを押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。

[MENU] → [📷1] → [◀▶キーカスタマイズ] → [右側へ] → [設定変更を割り当てたい機能] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

（次ページへ続く →）

機能	説明	ページ
露出補正	右キーを押すたびに「＋」側に補正され、左キーを押すたびに「ー」側に補正されます。（± 2.0、1/3 ステップ）	61
ホワイトバランス	左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。	58
撮像感度	左右キーを押すたびに撮像感度の設定が切り替わります。	59
カラーモード	左右キーを押すたびにカラーモードの設定が切り替わります。	63
なし	初期設定では、左右キーには機能は割り当てられていません。	-

●左右キーで各項目の設定を行うと、設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。シャッターボタンを半押しするか、または、上下レバー中央の実行ボタンを押すと、すぐに撮影画面にもどります。
●オートリセットを「あり」に設定している場合は、左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。
露出補正　：0.0
ホワイトバランス　：AUTO
ドライブモード　：□（1 コマ撮影）
撮像感度　：AUTO

撮像感度（シーンセレクターモードでは設定できません）

撮影時の感度を選択することができます。感度は ISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

[MENU] → [2] → [撮像感度] → [右側へ] → [希望の撮像感度] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

●感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
オート（AUTO）、ISO400、ISO200、ISO100、ISO50
●オート（AUTO）の場合、感度は ISO50 ～ 160 の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。

（次ページへ続く →）

撮像感度

- オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側に ISO と選んだ値が表示されます（左図）。
- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定は AUTO になります。*AUTO 以外の設定を保持したいときは→ P.62 オートリセット「なし」*
- 左右キーカスタマイズで撮像感度を設定すると、左右キーを押すだけで撮像感度の設定を切り替えることができます。*詳しくは→ P.58*

応用編

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離（フラッシュ光の届く距離）は以下の通りになります。感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、画像が粗くなります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート（AUTO）	0.2 ～ 3.2m	0.1 ～ 1.8m
ISO 50	0.2 ～ 1.8m	0.1 ～ 1.0m
ISO 100	0.2 ～ 2.5m	0.1 ～ 1.4m
ISO 200	0.2 ～ 3.6m	0.1 ～ 2.0m
ISO 400	0.25 ～ 5.0m	0.15 ～ 2.8m

測光モード（シーンセレクターモードでは設定できません）

測光モード（画面のどの部分の明るさを測るか）を、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

多分割測光：画面を細かく分割して測光します。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確にとらえます。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光：画面中央にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみの明るさを測ります。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定部分だけを測光するのに適しています。

[MENU] → [2] → [測光モード] → [右側へ] → [希望の測光モード] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

スポット測光サークル

●スポット測光を選んだときは、液晶モニターの画面左下に が表示されます。

●オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、測光モードは多分割になります。*設定を保持したいときは→ P.62 オートリセット「なし」*

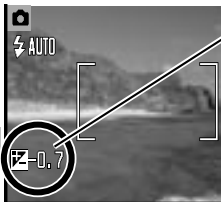
画像を明るくする / 暗くする（露出補正）

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。± 2.0 段の範囲内で 1/3 段刻みで補正することができます。＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

[MENU] → [2] → [露出補正] → [右側へ] → [上下キーで数値設定] → [実行] → [MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

（次ページへ続く →）

画像を明るくする／暗くする（露出補正）

●液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。

●露出補正を解除するときは、上記の同じ操作で 0 を設定してください。
●液晶モニター OFF の時は、メニューボタンを押すと上記メニュー画面が現れます。実行ボタンで補正値決定後メニューボタンを押すと、液晶モニターは再び OFF になります。
●オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は 0 になります。
●左右キーカスタマイズで露出補正を設定すると、左右キーを押すだけで露出補正値を設定することができます。*詳しくは→ P.58*

応用編

オートリセット

オートリセットを「あり」にすると、電源を入れ直すたびに下図の設定項目が初期設定に自動的にもどります。「なし」にすると、電源を入れ直しても前回に使用した設定が保持されます。

[MENU]→[2]→[オートリセット]→[右側へ]→[ありまたはなし]→[実行]→[MENU]

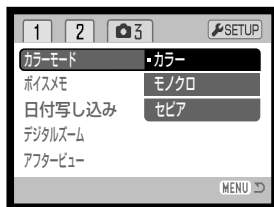
（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

状態の変わる項目	初期設定（この状態にもどります）
画面表示の切り替え（P. 30）	液晶モニター ON（表示あり）
フラッシュモード *1（P. 48）	自動発光または赤目軽減自動発光
フォーカスフレーム（P. 50）	ワイドフォーカスフレーム
ドライブモード（P. 51）	1 コマ撮影
ホワイトバランス（P. 58）	AUTO
撮像感度（P. 59）	AUTO
測光モード（P. 61）	多分割
露出補正 *2（P. 61）	± 0.0
カラーモード（P. 63）	カラー

（次ページへ続く →）

*1 フラッシュモードを前回赤目軽減自動発光に設定していた場合は、オートリセット「あり」で電源を入れ直すと、自動発光ではなく赤目軽減自動発光になります。その他のフラッシュモードの場合は自動発光になります。
*2 オートリセット「なし」のときに設定した露出補正値は､オートリセット「あり」に設定しただけでは解除されません｡一度スライドカバーを閉じて電源を落とし、もう一度カバー開けて電源を入れることで露出補正値は解除されます。

●お買い上げ時は、オートリセット「あり」に設定されています。電源を入れ直したときに前回設定した状態でそのまま撮影したい場合は、オートリセットを「なし」にしてください。

カラーモード（シーンセレクターモードでは設定できません）

モノクロ（白黒）やセピア調の画像を撮影することができます。

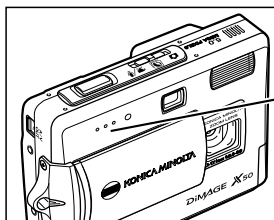
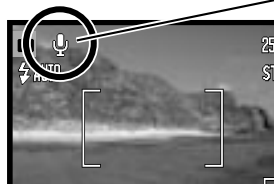
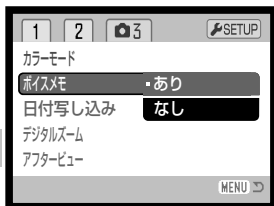
カラー　：通常の標準カラー画像が撮影できます。
モノクロ　：白黒画像が撮影できます。
セピア　：やや色あせた、全体に黒茶色（セピア調）の画像が撮影できます。

[MENU]→[3]→[カラーモード]→[右側へ]→[希望のカラーモード]→[実行]→[MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

●[カラー] は、メニュー画面には表示されますが、撮影中の表示はありません。
●[モノクロ] [セピア] を選んだときは、液晶モニターの画面上部にそれぞれの絵記号が表示されます。左図の例は [モノクロ] の場合です。

●選んだカラーモードに応じて、背景の画像の色調も変わります。
●モノクロやセピアを選んでも、画像ファイルサイズはカラーと同じです。
●オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとカラーモードは [カラー] になります。***設定を保持したいときは→ P.62 オートリセット「なし」***

ボイスメモ

撮影直後に、最大 15 秒間、撮影した画像のコメント等を音声で入れることができます（ボイスメモ）。

[MENU]→[📷3]→[ボイスメモ]→[右側へ]→[ありまたはなし]→[実行]→[MENU]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

●ボイスメモを「あり」に設定すると、液晶モニター左上に音声録音を表す 🎙 が表示されます。

1.撮影します。

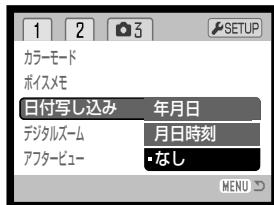
●撮影直後 2 秒経つと右の画面が現れ、録音が始まります（アフタービュー *（→P.66）* が「あり」の場合は、撮影された画像を 2 秒間表示した後に録音が始まります）。

2.マイクに向かって話します。

●残りの秒数を画面右下に表示します。
●マイクの部分を指などでふさがないようにしてください。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

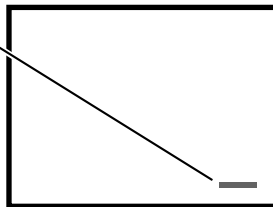
●ボイスメモは最大 15 秒間録音できます。録音開始から 15 秒経過すると自動的に録音は終了します。
●マイクから 20 cm くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
●連続撮影の場合は、最後のコマにだけボイスメモを付けることができます。

日付写し込み

撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。

[MENU]→[3]→[日付写し込み]→[右側へ]→[希望の設定]→[実行]→[MENU]

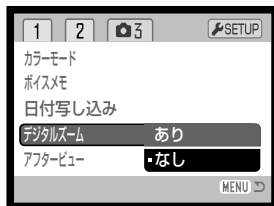
(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

●実際の写し込みの位置は右にようになります。

●日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。

●日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は、画像とは別情報として記録されており、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P.108

●日付写し込みを「年月日」「月日時刻」に設定していると、連続撮影の速度が遅くなります。

デジタルズーム

通常のズーム(光学ズーム)で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに 4.3 倍まで画像を拡大することができます。

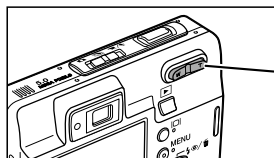
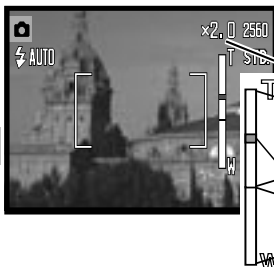
[MENU]→[3]→[デジタルズーム]→[右側へ]→[ありまたはなし]→[実行]→[MENU]

(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

1.上記の操作で、デジタルズーム[あり]を設定します。

2.ズームレバーの「T」を押して、望遠側にズームさせます。

(次ページへ続く →)

ボイスメモ/日付写し込み/デジタルズーム

デジタルズーム

3. そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに 4.3 倍まで拡大されます。

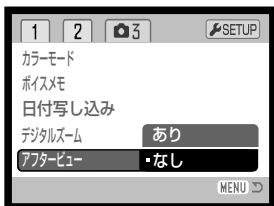
●液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。0.1 倍ごとに 4.3 倍まで拡大することができます。また、ズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします。

デジタルズームの領域を表します。

現在のズーム位置の目安を示します。光学ズームの領域では青色で、デジタルズームの領域では黄色で示されます。

光学ズームの領域を表します。

●デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
●液晶モニターは ON にしてください。OFF だとデジタルズームはできません。デジタルズームの拡大はファインダーで確認することはできませんので、液晶モニターを見ながら撮影してください。
●デジタルズーム後に液晶モニターを OFF にすると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。
●動画撮影 *(→ P. 68)* の場合も、同様のデジタルズームが可能です。

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約 2 秒間液晶モニターに表示させることができます (アフタービュー [あり])。

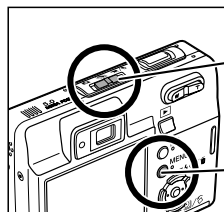
[MENU] → [3] → [アフタービュー] → [右側へ] → [ありまたはなし] → [実行] → [MENU]

(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

●連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
●アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
●液晶モニター OFF の状態でアフタービューを「あり」にすると、撮影画像を 2 秒間表示した後に液晶モニターが消灯します。
●アフタービュー「なし」でも、液晶モニター ON 状態ならば、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間撮影した画像が表示されます。

動画撮影 / ボイスレコード

このカメラは、カードの残り容量いっぱいまで連続して音声付きの動画を撮影できます。ボイスレコード（音声記録）は最長連続 180 分の記録ができます。長時間連続して動画撮影 / ボイスレコードされる場合は、別売りの AC アダプター AC-4 をお使いになると、電池の残り容量を気にせず操作できます。

動画とボイスレコードの切り換え

1. **モード切り替えレバーを動画撮影 / ボイスレコードモード に合わせます。**
2. **メニューボタンを押して、液晶モニターに動画 / ボイスレコードモードメニューを表示させます。**
3. **十字キーの上下キーを押して、[切り替え] を反転させて選びます。**
4. **十字キーの右キーを押して、選択可能項目の内容一覧を表示させます。**
5. **十字キーの上下キーを押して、[動画] または [ボイスレコード] を反転させて選択します。**
6. **十字キーの中央の実行ボタンを押して決定します。**
7. **メニューボタンを押して、動画またはボイスレコードモードにもどります。**

（次ページへ続く →）

アフタービュー／動画撮影／ボイスレコード

動画

動画の基本的な撮影と動画メニューについては→「動画を撮ってみましょう」P.35 ～ 36 をご参照ください。

ズームについて
- 動画撮影開始前は、静止画撮影と同じ通常のズーム（光学ズーム）とデジタルズームの両方が可能です。動画撮影中はデジタルズームが可能です。

ピントについて
- ピント位置は動画撮影開始時に固定されます。動画撮影中はオートフォーカスは動作しません。

フォーカスフレームについて
- 動画撮影開始前は、上下レバー中央の実行ボタンを約 1 秒間押し続けることで、ワイドフォーカスフレームとスポットフォーカスフレームとを切り替えできます。動画撮影中はフォーカスフレームの切り替えはできません。

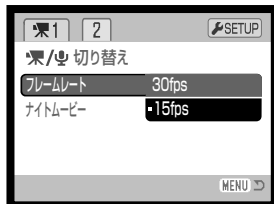
液晶モニター表示について
- 動画撮影開始前は、液晶モニターボタンを押すたびに、[液晶モニター ON（表示あり）] と [液晶モニター ON（表示なし）] を切り替えできます。液晶モニターを OFF（消灯させる）にはできません。

その他の動画撮影前に可能な設定
- 露出補正、ホワイトバランス（→ P. 70）、カラーモード（→ P. 70）（左右キー、および、動画撮影メニューで設定可能）
- フレームレート（→ P. 69）、ナイトムービー機能の ON/OFF（→ P. 69）（動画撮影メニューで設定可能）

その他の動画撮影時に固定される設定
- 動画撮影時には、以下の機能は固定されます。変更はできません。
  測光モード（多分割）、撮像感度（オート）、ファイル形式（Motion JPEG / MOV）
- 以下の機能は、動画撮影時には使用できません。
  フラッシュ、シーンセレクター、日付写し込み、液晶モニター消灯（OFF）

- 撮影された動画は、SD メモリーカード内に Motion JPEG（MOV）ファイルとして保存されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、動画撮影はできません。（『電池が少ないので動画撮影できません』というメッセージが表示されます。）
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます（ナイトムービー機能→ P. 69）。

カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。特に、フレームレート 30fps の設定で動画撮影する場合は、データ転送速度 10MB/ 秒以上の SD メモリーカードのご使用をおすすめします。

フレームレート

動画は、1 枚 1 枚の静止画像を連続して再生することで、動きのある絵になっています。この静止画像の 1 枚 1 枚を「フレーム」といいます。フレームレートは、1 秒当たりに取り込む（撮影する）フレーム数のことで、2 通りの中から選ぶことができます。フレームレートが大きくなるほど、より動きの滑らかな動画になりますが、ファイルサイズは大きくなります。

[MENU] → [1] → [フレームレート] → [右側へ] → [希望のフレームレート] → [実行] → [MENU]

(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

fps = Frame per Second の略。1 秒当たりのフレーム数のこと。

●画面右上に、選んだフレームレートが表示されます。

フレームレート 30fps の設定で動画撮影する場合は、データ転送速度 10MB/秒以上の SD メモリーカードのご使用をおすすめします。

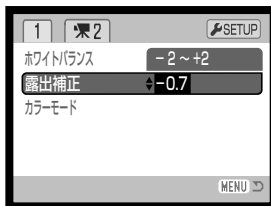
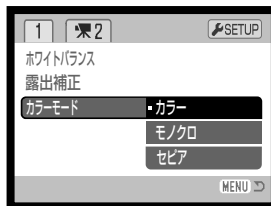
ナイトムービー

暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを [ON] にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

[MENU] → [1] → [ナイトムービー] → [右側へ] → [ON または OFF] → [実行] → [MENU]

(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

●ナイトムービーを ON にすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

（次ページへ続く →）

ホワイトバランス	露出補正	カラーモード

[MENU] → [2] → [ホワイトバランス] → [右側へ] → [希望のホワイトバランス] → [実行] → [MENU]

[MENU] → [2] → [露出補正] → [右側へ] → [上下レバーで数値設定] → [実行] → [MENU]

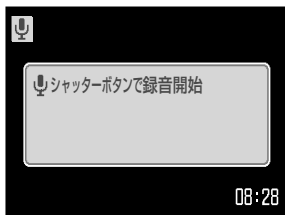
[MENU] → [2] → [カラーモード] → [右側へ] → [希望のカラーモード] → [実行] → [MENU]

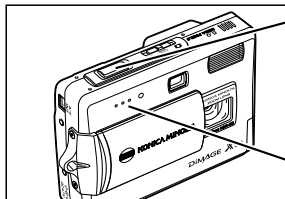
(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32))

動画のホワイトバランス、露出補正値、カラーモードを設定できます。
設定のしかたや各設定での選択肢は、撮影モード時のメニューと同じです。
(ホワイトバランス→ P. 58　　露出補正→ P. 61　　カラーモード→ P. 63)

●ホワイトバランス、露出補正(値)、カラーモードの各設定は、撮影モード( )時のメニュー設定と共通です。どちらかのメニュー画面での設定と同じ設定が、もう一方のメニュー画面に現れます。

ボイスレコード

連続最長 180 分までの、音声の録音ができます。

1.67 ページに記載の手順で、ボイスレコードを選びます。

●メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニターには左の「録音開始画面」が表示されます。液晶モニター左上にはが、右下には録音可能な残り時間（"時：分：秒"、60 分未満の場合は "分：秒"）が表示されます。

2.シャッターボタンを押して録音を開始します。

●録音を開始すると、左下図のようなバーグラフが表示され、画面右下には録音開始からの経過時間が表示されます。連続録音時間が 180 分に近づくなどで録音可能な残り時間時間が 10 秒以下になると、赤色で残り秒数表示に変わります。
●声を録音するときは、マイクから 20cm くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
●マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。

3.録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

●付属の 16MB のカードには、合計約 30 分 28 秒間の音声を記録することができます。
※ボイスレコード（＝音声）の再生について→ P. 75
●録音中に液晶モニターボタンを押すと液晶モニターを OFF にできます（再度押すと液晶モニター ON になります）。録音前は液晶モニターを OFF にできません。
●録音された音声は、SD メモリーカード内に WAV ファイルとして保存されます。

再生編

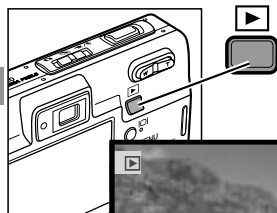
この章では、再生ボタンを使って、撮影した静止画や動画を見たり、動画を編集する機能など再生に関する詳しい説明をしています。

再生する

撮影した静止画や動画を再生するには、再生ボタンを使います。
カメラ前面のスライドカバーが閉じて電源が切れている状態でも、再生ボタンを長押しすると、再生モードに入れます。

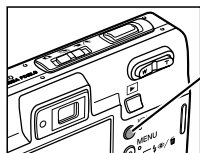
1.再生ボタンを押します。

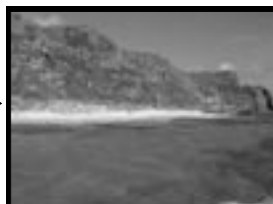
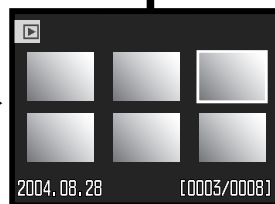
●液晶モニターに撮影された最新の画像が表示されます。

2.十字キーの左右キーを押して、見たい画像を選びます。

3.再生を終了するときは、もう一度再生ボタンを押します。

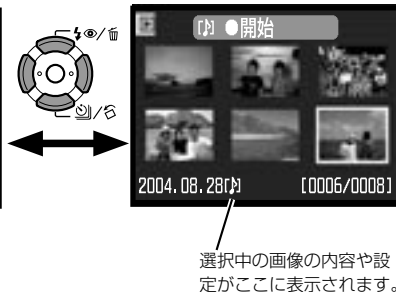
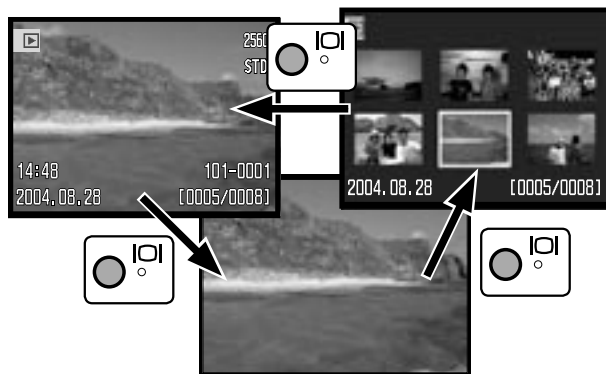
●スライドカバーが閉じていた場合は、電源が切れます。再生モードの前に撮影モードを使っていた場合は、その直前の撮影モードに戻ります。

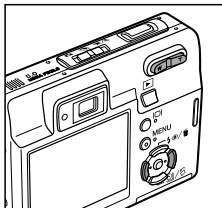
●左右キーを押し続けると、画像が早送りされます。
●最新画像を表示中に左右キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。逆も同様です。
●画像が記録されていない場合は、「画像がありません」というメッセージが現れます。
●動画の場合は動画撮影開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

再生画面表示の切り替え

再生モード時に液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

●この使用説明書では、1 コマ再生・表示あり（左端）の状態で説明しています。
※各表示については→ P.14

1 コマ再生（表示あり）　1 コマ再生（表示なし）　インデックス再生（下記）

インデックス再生

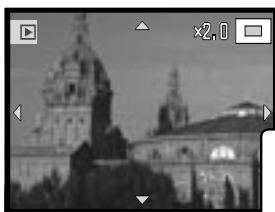
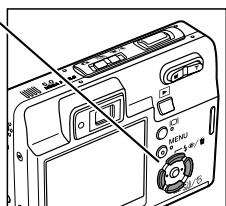
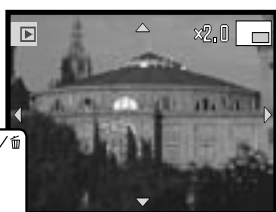
インデックス再生時は、十字キーの上下キーや左右キーで、見たい画像を選択することができます。液晶モニターボタンで 1 コマ再生にすると、選択している画像が液晶モニターに表示されます。

選択中の画像の内容や設定がここに表示されます。

拡大再生

再生画像を、最大 6 倍にまで拡大することができます。
●動画の拡大再生はできません。

1.再生モードで、左右キーを押して、拡大して見たい画像を選びます。

2.ズームレバーの［T］を押します。

●ズーム画面が現れ、［T］を押すたびに画像が、0.2 倍ずつ、1.2 倍から 6 倍まで拡大されます。［W］を押すと縮小します。
●液晶モニターに拡大された画像が表示され、画面の右上に、現在の拡大倍率とその右に元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ（白は元画像全体、黄色は拡大再生されている部分）が現れます。

初期画面

ズーム画面

3.拡大された画像の見たい部分を移動（=スクロール）したい場合は、十字キーの上下左右キーの任意のキーを押します。

●上下左右へ移動したい場合は、各々上下左右キーの任意のキーを押します。すなわち、現在よりも右の画面が見たい場合は、右キーを押します。
●任意の方向のキーを押すことで、希望の画面が表示され、インジケータにも現在の表示部分が反映されます。

4. 画像を元の大きさの方にする（=ズームアウト）には、ズームレバーの［W］を押します。

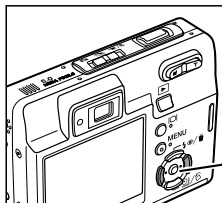
●違う画像を表示するには元の大きさにもどり（=ステップ 1. の再生の初期画面）、左右キーを押して選択してください。
●元の大きさにすぐにもどりたい場合は、十字キーの中央の実行ボタンかメニューボタンを押します。

5. 再生を終わるときは、もう一度再生ボタンを押します。

●撮影モードを使っていた場合は直前の撮影モード、スライドカバーを閉じていた場合は電源が切れます。

動画や音声付き画像の再生

動画、ボイスメモ *(→ P. 64)* やアフレコ *(→ P. 80)* といった音声付き画像、ボイスレコードの再生方法は以下の通りです。1 コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

動画の再生

1. 1 コマ再生、または、インデックス再生で、左右キーを押して、動画が撮影されたコマを選択します。

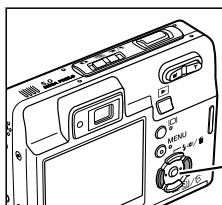
●動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

2. 実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

●右上の数値は経過秒数です。
●再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。左右キーで再生の巻戻し、早送りができます (右キーが早送り、左キーが巻戻し)。
一時停止をして、動画から静止画の切り出しをすることができます。*→動画の再生モードからの静止画切り出し P.89*
●デジタルカメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。
再生中に上下キーで音量の調節ができます。(上キーで音量アップ、下キーで音量ダウン。)

MENU

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。
●最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。
●動画の拡大再生はできません。

ボイスレコードの再生

1. 1 コマ再生、または、インデックス再生で、左右キーを押して、ボイスレコードしたコマを選択します。

●画面が青色になります。

拡大再生／動画や音声付き画像の再生

(次ページへ続く →)

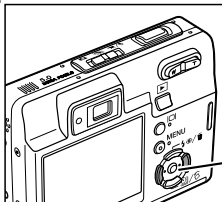
2. 実行ボタンを押すと、ボイスレコードの再生が開始されます。

- 右上の数値は経過時間です。
- 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。また左右キーで再生の巻戻し、早送りができます (右キーが早送り、左キーが巻戻し)。
- 再生中は、上下キーで再生音量の調節ができます（上キーで音量アップ、下キーで音量ダウン)。

MENU

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

- 最後まで再生が終了すると、自動的に開始前の画面に戻ります。

音声（ボイスメモ・アフレコ）付き画像の再生

1. 1 コマ再生、または、インデックス再生で、左右キーを押して、ボイスメモ、または、アフレコ付き画像を選択します。

- 画面下に ♪ が現れます。

2. 実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中は、上下キーで再生音量の調整ができます。(上キーで音量アップ、下キーで音量ダウン。)

MENU

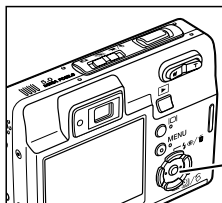
3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

- 最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。

再生編

画像の回転

再生モードでは、十字キーの下キーを押して、撮影した画像を回転させて液晶モニターで見ることができます。縦位置で撮影した画像をみるときに、いちいち液晶モニターを縦にして見る必要がないので、スライドショーやテレビで見る場合にもスムーズに見ることができます。*→スライドショー P. 84、テレビで見る P. 44*

●回転できる画像は静止画で、動画は回転させることができません。

1. 再生モードで 1 コマ再生を表示させ、左右キーを押して、画像を回転させたい画像を選択します。

●1 コマ再生で情報の表示を消したい場合は再生画面表示の切り替えで「1 コマ再生（表示なし）」を選びます。*→ P.73*

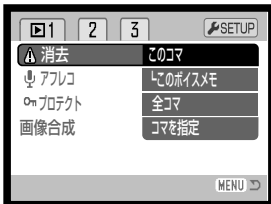
元画像

2. 希望の回転画像が表示されるまで、十字キーの下キーを押します。

●一度回転させた画像はその設定された状態で保存されますので、再生のたびに下キーを押して回転させる必要がありません。

●下キーを押すたびに、右図のように、画像が回転します。

画像の回転

画像の消去

いったん消去した画像を復活させることはできません。

画像を消去します。以下の４通りの消去方法があります。

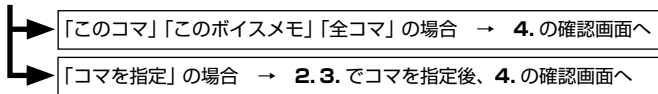
このコマ（1 コマ消去）：再生中の画像を 1 コマだけ消去します。
└このボイスメモ：再生中の画像が音声付き(ボイスメモ､アフレコ)の場合、その音声だけを消去します。
全コマ：カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：指定した画像だけを消去します。

- 動画やボイスレコードも同様に消去できます。
- 音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。音声だけ消去するには上記［このボイスメモ］を選択してください。
- ［このボイスメモ］は、音声の付いていない画像や動画、ボイスレコードのときは選択できません。

再生編

[MENU]→[▶1]→[消去]→[右側へ]→[消去方法を選択]→[実行]→[MENU]

(※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32)、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」(P.39))

1.再生ボタンを押して再生モードに入り、上記の手順で希望の消去方法を選択します。

2.「コマを指定」の場合、左右キーで消去するコマを選び、上キーを押して指定します。

左右キーで
画像を選択し、

上キーを押して
画像を指定します。

消去を指定したコマには🗑が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 下キーを押すと、画像の指定を取り消します。取り消された画像から🗑の表示が消えます。
- 🔑が表示されている画像を指定すると下のメッセージが現れます。画像がプロテクト *（誤消去防止→ P. 81）* されていて、その画像は消去できません。

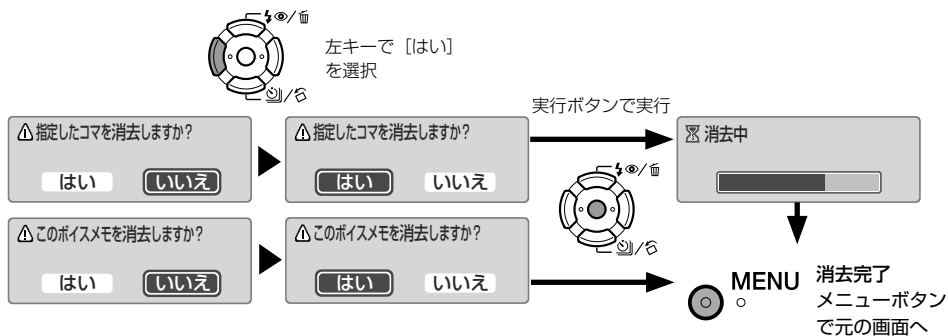
（次ページへ続く →）

●全コマ消去の場合、右のメッセージは現れませんが、プロテクト（誤消去防止）された画像は消去されずに残ります。

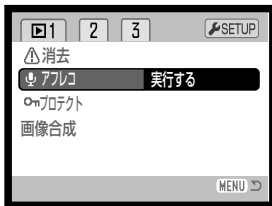
⚠プロテクトされています

3.十字キー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

●**4.** の確認画面に進みます。
●十字キー中央の実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

4.確認後、消去を実行します。（下図は［コマを指定］［このボイスメモ］の場合の表示）

アフレコ

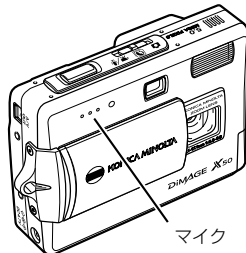
画像に音声を付けることができます。最大 15 秒間の録音が可能です。
※アフレコ ＝ アフターレコーディング（After recording）の略

1.再生ボタンを押して再生モードに入り、左右キーを押して、音声を付けたい画像を選びます。

2.メニューボタンを押し、下記の手順でアフレコを開始します。

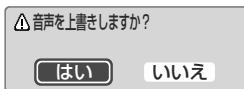
[MENU] → [▶1] → [アフレコ] → [右側へ] → [(実行する)] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

マイクに向かって話します。録音中は左図の画面が表示されます。

- 声を録音するときは、マイクから 20cm くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

- アフレコは最大 15 秒間可能です。15 秒経過すると、自動的に録音は終了します。
- メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

- アフレコを付けた画像には、液晶モニターに♪が表示されます。
- アフレコを再生するには→ P. 76

- すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが表示されます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

- 動画とボイスレコード、およびプロテクト（→ P. 81）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

大事な画像を残す（プロテクト）

撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の３通りのプロテクト方法と、プロテクトの取り消しがあります。

このコマ（1 コマプロテクト）：
　再生中の画像 1 コマだけにプロテクトをかけます。
　1 コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。

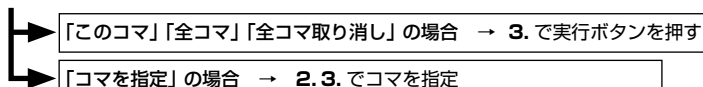
全コマ（全コマプロテクト）：
　カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

コマを指定：
　指定した画像だけにプロテクトをかけます。

全コマ取り消し：
　カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

[MENU] → [▶ 1] → [プロテクト] → [右側へ] → [プロテクト方法を選択] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

1. 再生ボタンを押して再生モードに入り、上記の手順で希望のプロテクト方法を選択します。

●再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに🔑が表示されます。
●カードをフォーマット（初期化、→ P. 100）すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

（次ページへ続く →）

2.「コマを指定」の場合、左右キーでプロテクトするコマを選び、上キーを押して指定します。

左右キーで
画像を選択し、

上キーを押して
画像を指定します。

プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。

必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 下キーを押すと、画像の指定を取り消します。取り消された画像から🔑の表示が消えます。

3.十字キー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

実行ボタンで指定
を完了

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクト（コマ指定）が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、元の画面に戻ります。

全コマ取り消しますか？

はい　いいえ

- 全コマ取り消しの場合は左の確認画面が現れます。左キーで「はい」を選択後、実行ボタンで実行してください。

画像の合成

このカメラで合成写真を作成できます。

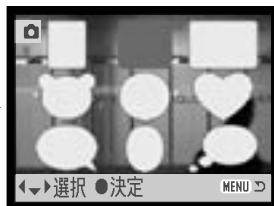
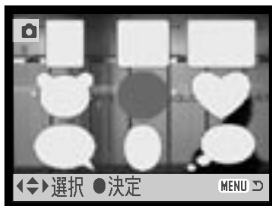
- すでに撮影した画像を背景に、別の撮影画像を合成して新たな画像を作成します。背景に選んだ画像は元画像としてそのまま残ります。
- モノクロで撮影した画像を背景にしてカラーの写真を合成するなど、設定次第でさまざまな合成写真をつくることができます。
- 動画やボイスレコードには合成できません（動画、ボイスレコードを再生時はメニュー画面で画像合成を選択できません）。
- カードに空き容量がないときは、メニュー画面で画像合成を選択できません。
- 画像の合成の場合は、スライドカバーを開けてから再生ボタンを押して再生モードにしてください。スライドカバーが閉じていると画像の合成ができません。

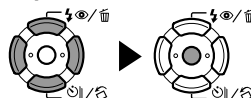
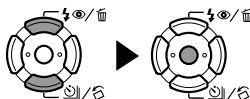
1.再生ボタンを押して再生モードに入り、左右キーで背景となる画像（静止画）を表示させせます。

2.下記操作でメニューから［画像合成］を選び、実行します。

- 合成する画像の枠を選ぶ画面が表示されます。

［MENU］→［▶1］→［画像合成］→［右側へ］→［実行する］→［実行］

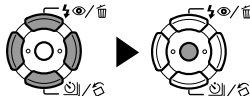
（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

3.上下左右キーで枠の種類を選び、実行ボタンを押します。

- 合成する画像枠の大きさを選ぶ画面が表示されます。

4.上下キーで枠の大きさを選び、実行ボタンを押します。

- 大、中、小の３段階から選べます。
- 実行ボタンを押すと、枠内にレンズを向けている被写体が現れ、合成位置を設定する画面が表示されます。

（次ページへ続く →）

画像の合成

5. 上下左右キーで枠を合成したいところへ移動させ、実行ボタンを押します。

シャッターボタンで合成撮影

6. 枠の中に合成したい被写体を入れ、シャッターボタンを半押しします。

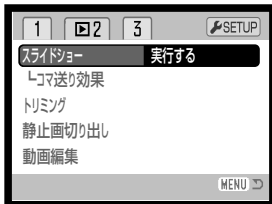
●シャッター音を設定していると、ピントが合った際に音が出ます。
●合成する画像は、背景の画像と同じ画像サイズ、画質に設定されます。
●画像サイズ、画質以外の撮影時の設定（ホワイトバランス、測光モード、撮像感度など）は、前回の撮影と同じ設定になります。
●撮影中はズームレバーで光学ズームができます。

7. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

●画像が合成されます。合成の処理が終わると、再生モードのメニュー画面に戻ります。

●背景の画像が音声付き画像の場合は、作成した合成画像にも同じ音声が付きます。
●背景画像と合成枠内の画像とで新たに 1 枚の画像を作成します。合成枠の中に撮影した画像は、その画像のみでは保存されません。

スライドショー（画像の自動再生）

カードに記録された画像を自動的に順番に表示させることができます。初期設定では、すべての画像が最初から順番に 5 秒ずつ表示されます。

1. 再生ボタンを押して再生モードに入ります。

2. 下記操作でメニューから [スライドショー] を選び、実行します。

●コマ送り効果の設定に従って、スライドショーが始まります。*→ P.85*

[MENU] → [▶2] → [スライドショー] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32)、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」(P.39)）

スライドショー再生中の操作

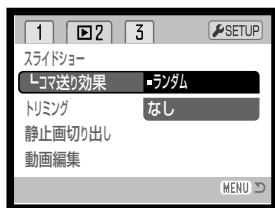
十字一の左キーで巻き戻し

十字一の右キーで早送り

十字一の実行ボタンで一時停止・再生開始の繰り返し

3.スライドショーを途中で終える時は、メニューボタンを押します。

●スライドショー開始前の再生モードのメニュー画面に戻ります。メニュー画面から通常の再生画面にもどるときは、メニューボタンを押します。
●スライドショーが全て終わると、スライドショー開始前の再生モードのメニュー画面に戻ります。

スライドショーのコマ送り効果の設定変更

スライドショーでのコマ送り効果（＝次のコマを表示するときの切り替わりの表現方法）を選ぶことができます。

ランダム：

クロスディゾルブ（＝コマとコマが柔らかなグラデーションで切り替わる)、上から下へ、下から上へ、左から右へ、右から左へ、中央から左右へ、中央から上下へ、フェードアウト、フェードイン、チェッカー（＝細かい格子で切り替わる）などの効果が不規則に選択され、演出されます。

なし：

コマ送り効果なしで、単純に次の画像に切り替わります。

●初期設定では、ランダムが設定されています。

1.下記操作でメニューから［コマ送り効果］を選び、希望の効果を選びます。

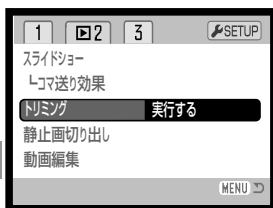
[MENU] → [▶2] → [コマ送り効果] → [右側へ] → [ランダムまたはなし] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32)、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」(P.39)）

2.P.84 の手順にしたがってスライドショーを実行して、スライドショーを開始します。

トリミング（画像の切り取り）

静止画の一部を切り取って新たな画像を作成します。
●すでに撮影した画像の一部を切り取って新たな画像を作成します。切り取り元の画像はそのまま残ります。
●動画やボイスレコードはトリミングできません（動画、ボイスレコードを再生時はメニュー画面でトリミングを選択できません）。

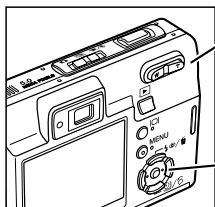
1.再生ボタンを押して再生モードに入り、左右キーで切り取り元となる画像（静止画）を表示させます。

2.下記操作でメニューから［トリミング］を選び、実行します。
●トリミング操作画面が表示されます。

[MENU] → [▶2] → [トリミング] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

●拡大せず等倍でトリミングすると、元画像と同じ画像をコピーできます。

3.拡大再生（→ P.74）と同じ操作で、切り取りたい範囲をモニターに表示させます。

●ズームレバーで画像を拡大・縮小します。［ T ］を押すたびに画像が0.2 倍づつ、1.2 倍から 6 倍まで拡大されます。［W］を押すと同じステップで縮小されます。レバーを押し続けると連続して拡大・縮小されます。

●十字キーの上下左右キーで画像全体を上下左右に移動させます。レバーやキーを押すたびに、画像が表示画面の 1/8 ずつ上下左右に動きます。レバーやキーを押し続けると連続して移動します。

再生編

4.切り取りたい範囲がモニターに表示されたら、十字キー中央の実行ボタンを押して、切り取りを実行します。

●切り取られた画像が保存されます。保存後に以下の確認表示が現れます。実行ボタンを押すと、確認表示が消えてメニュー画面に戻ります。

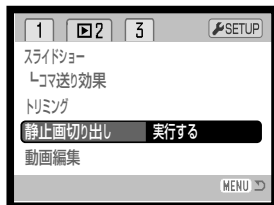
●切り取られた画像が保存されるときの画像サイズは、以下のようになります。

切り取ったサイズ	保存画像のサイズ
640 × 480 以下	→ 640 × 480
640 × 480 を超え 1280 × 960 以下	→ 1280 × 960
1280 × 960 を超え 1600 × 1200 以下	→ 1600 × 1200
1600 × 1200 を超え 2048 × 1536 以下	→ 2048 × 1536
2048 × 1536 を超える	→ 2560 × 1920

●切り取られた画像の画質は、元画像と同じ画質になります。たとえば元画像の画質がスタンダードなら、切り取られた画像の画質もスタンダードになります。
●切り取られる画像の縦横比は 4：3 で変更できません。
● 320 画素× 240 画素より小さい画像を切り取ることはできません。
●「カードに空きがありません」のメッセージが表示されたときは、不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やすか、切り取る画像のサイズを小さくしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を（十分に）残しておいてください)。

動画の静止画切り出し

動画の 1 シーンを静止画として保存できます。元の動画はそのまま残ります。
●静止画、ボイスレコード再生時は、メニュー画面で静止画切り出しを選択できません。

1.再生ボタンを押して再生モードに入り、左右キーで静止画を切り出したい動画を表示させせます。

●動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。

2.下記操作でメニューから［静止画切り出し］を選び、実行します。

●動画がカメラ内部のメモリーに読み込まれた後、切り出すシーンを選ぶ画面が表示されます。

［MENU］→［▶2］→［静止画切り出し］→［右側へ］→［実行する］→［実行］

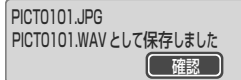
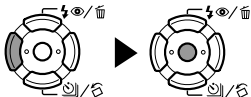
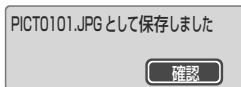
（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

（次ページへ続く →）

3.左右キーで切り出したいシーンを選びます。

●右キーを押すたびに映像が 1 フレームずつ送られ、左キーを押すたびに 1 フレームずつ映像が戻されます。キーを押し続けると早送り／早戻しされます。

4.切り出したいシーンが表示されたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●シーンが切り出されます。処理後、音声もいっしょに保存するかどうかを確認する以下の画面が現れます。

5.音声も保存するときは、左キーで［はい］を選んで実行ボタンを押します。

●切り出したシーンの前後合わせて（最長）約 15 秒の音声が、切り出した静止画と同じファイル名の音声ファイルとしていっしょに保存されます。
●音声を保存しないときは、［いいえ］を選んで実行ボタンを押してください。静止画だけが保存されます。
●保存後、左下の確認画面が現れます。

音声もいっしょに保存した場合

6. 実行ボタンを押して確認を押し、画面を閉じます。

●切り出すシーンを選ぶ左図の画面に戻ります。必要に応じて、**3. ～ 5.** の操作を繰り返し、静止画切り出しを続けることができます。切り出し操作を終了するときは、メニューボタンを押してください。

静止画のみ保存した場合

●切り出される静止画の画像サイズは、切り出す元動画のサイズと同じ画像サイズになります。
●切り出される静止画の画質は、エコノミー相当になります（動画の圧縮率と静止画の画質（圧縮率）とは一致しませんので、切り出された静止画には画質の情報は記録されていません）。

（次ページへ続く →）

●**2. ～ 5.** の操作中にメニューボタンを押すといつでも切り出し作業を中断できます。

カードに空きがありません

●このメッセージが表示されたときはカードに十分な空き容量がありません。不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を（十分に）残しておいてください）。

動画の再生モードからの静止画切り出し

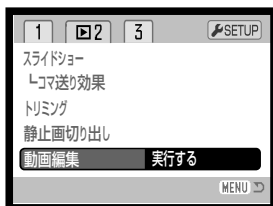
動画の再生中に静止画の切り出しもできます。

1. 再生モードで静止画を切り出したい動画を表示させます。
2. 十字キーの中央の実行ボタンを押して、再生を開始します。
3. 切り出しを行いたい画面で、実行ボタンを押して一時停止させます。右のような画面が表示されます。
4. 十字キーの上キーを押します。
5. 「この画像を静止画として保存しますか？」の表示がされますので、「はい」が選択されているのを確認して、実行ボタンを押します。
6. 「音声も保存しますか？」の表示がされますので、左右キーで「はい」か「いいえ」を選んで、実行ボタンを押します。
7. 「画像（と音声）を保存しました」の確認の画面が表示されますので、実行ボタンを押して完了します。

動画編集

撮影済みの動画から不要な部分を消去して、新たな動画を作成できます。元の動画は、残すことも消去することもできます。

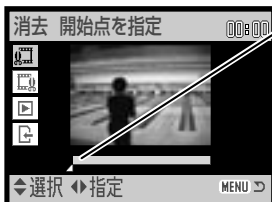
● ［動画編集］は、動画が撮影されたコマを再生画面に表示させているときに選択できます。

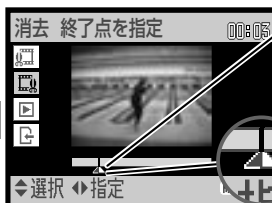
1. 再生ボタンを押して再生モードに入り、左右キーで編集したい動画を表示させます。

2. 下記操作でメニューから［動画編集］を選び、実行します。

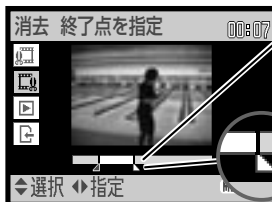
●動画がカメラ内部のメモリーに読み込まれた後、編集（消去部分）の開始点を選ぶ画面が表示されます。

［MENU］→［▶2］→［動画編集］→［右側へ］→［実行する］→［実行］

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

（次ページへ続く →）

3.左右キーで、編集（消去部分）の開始点を指定します。

●右キーを押すたびに映像が 1 フレームずつ送られ、左キーを押すたびに 1 フレームずつ映像が戻されます。キーを押し続けると早送り／早戻しされます。

4.編集（消去部分）の開始点を指定したら、下キーを押します。

●編集（消去部分）の終了点を指定する画面（左図）が表示されます。

5.左右キーで、編集（消去部分）の終了点を指定します。

●右キーを押すたびに映像が 1 フレームずつ送られ、左キーを押すたびに 1 フレームずつ映像が戻されます。キーを押し続けると早送り／早戻しされます。

●開始点より前の点は選べません。開始点を変更したいときは、上キーを押すと前の操作 3. の画面に戻りますので、左右キーで開始点を変更してください。その後、下キーを押すとこの画面（左図）に戻ります。

6.編集（消去部分）の終了点を指定したら、下キーを押します。

●編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を確認する画面（左図）が表示されます。

（次ページへ続く →）

7. 確認のため編集後の動画を再生するときは、中央の実行ボタンを押します。

●編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）が再生されます。
●再生が終わると、再び上記操作 **6.** の画面が表示されます。下キーを押して操作 **8.** に進んでください。
編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を保存する画面（右上図）が現れます。

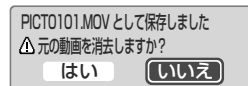
編集後の動画を再生しない場合は、そのまま下キーを押して、操作 8. に進みます。

●編集後の動画（消去部分を取り除いた動画）を保存する画面（右上図）が現れます。

8. 中央の実行ボタンを押します。

以下の確認画面が表示されますので、左キーで［はい］を選んで、実行ボタンを押します。

● ［いいえ］を選んだときは、編集後の動画は保存されません。画面は操作 **8.** のままですので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。
● ［はい］を選んだときは、編集後の動画が保存されます。保存後は、確認と元の動画を残すか、消去するかを選ぶ左図の画面が表示されます。

PICT0101.MOV として保存しました
元の動画を消去しますか？
はい　いいえ

9. 元の動画を消去するときは、左キーで［はい］を選んで、実行ボタンを押します。

元の動画を残すときは、右キーで［いいえ］を選んで、実行ボタンを押します。

● ［はい］メニュー画面に戻りますので、メニューボタンを押して、動画編集を終了してください。

●編集後の動画に対しても、同様の動画編集ができます。元の動画から 2 ヶ所以上の編集を行いたい場合などに便利です。
●編集後の動画のサイズがカードの残り容量よりも大きい場合は、編集後の動画の保存はできません。

DPOF（プリント）指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

●プリンタやプリント店が DPOF* に対応している必要があります。

*DPOF ＝ディーポフ、Ditigal Print Order Format の略。SD メモリーカード等のメディアに入っている画像のうち、どれを何枚印刷するのかを指定する方法。

デジカメで撮影した画像のプリント方法

(1) ご自分のプリンタで印刷する

画像をパソコンに取り込んだ（→ P. 41, 112）後印刷する方法が一般的です。PictBridge 対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属の USB ケーブルで接続するだけでプリントすることができます。→ P. 45, 128

(2) ネットプリントを利用する

インターネット経由でプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントの他に、「オンラインアルバム」「オンライン DVD サービス」などさまざまなサービスをご用意しております。ぜひご利用ください。

(3) ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する

メモリーカードをご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

再生編

プリントする画像を指定する

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。3 通りの指定方法と、全コマ取り消しがあります。

このコマ（1 コマプリント）：再生中の画像を 1 コマだけ DPOF（プリント）指定します。
全コマプリント：カード内の画像すべてを DPOF（プリント）指定します。
コマを指定：指定した画像だけを DPOF（プリント）指定します。
全コマ取り消し：カード内の画像すべての DPOF（プリント）指定を取り消します。

●動画、ボイスレコードの DPOF（プリント）指定はできません。

[MENU] → [▶3] → [DPOF 指定] → [右側へ] → [指定方法を選択] → [実行]

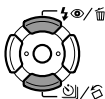
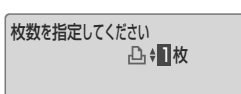
（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

1. 上記の手順で希望のプリント指定方法を選択します。

→「このコマ」「全コマ」の場合　→　**2.** に進んで枚数を指定

→「コマを指定」の場合　→　**3. 4.** でコマと枚数を指定

2.「このコマ」「全コマ」の場合、上下キーで希望の枚数を選んだ後、実行ボタンを押します。

●1 コマプリントの場合、指定した 1 コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9 枚)。
●全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9 枚)。

上下レバーで
枚数を指定して、

実行ボタンで決定

メニューボタンで元の画面に

●再生時、DPOF（プリント）指定された画像には、液晶モニターに と枚数が表示されます。 のみで数字がなければ、DPOF（プリント）指定枚数は 1 枚です。
●全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF（プリント）指定されません。

3.「コマを指定」の場合、左右キーで DPOF（プリント）設定するコマを選び、上下レバーを押して印刷枚数を指定します。

左右キーで
画像を選択し、

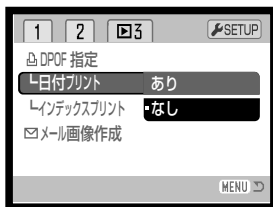
上下キーを押して
枚数を指定します。

プリント指定したコマには と枚数が表示されます。
必要なだけ左の操作を繰り返します。

4.実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

●実行ボタンを押すと、DPOF（プリント）指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
●メニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

DPOF（プリント）指定

日付プリント

プリントする際に、プリンタ側で日付を印字するかどうかを選べます。日付の印字される場所（画面内 / 画面外）や印字される文字のサイズ等は、お使いのプリンタによって異なります。

- ●印字されるのは「年月日」だけです。時刻は印字されません。
- ●プリンタによっては、この機能に対応していない機種もあります。
- ●画面内右下への日付写し込み（→ P. 65）とは別の機能ですので、重なって印字されないようお気をつけください。

[MENU] → [▶3] → [日付プリント] → [右側へ] → [ありまたはなし] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1 コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントを作成するかしないかを選べます。初期設定ではインデックスプリントは［作成しない］です。

- ● 1 枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- ●インデックスプリント［作成する］に設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。

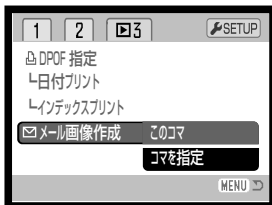
[MENU] → [▶3] → [インデックスプリント] → [右側へ] → [作成するまたは作成しない] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32）、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」（P.39））

メール画像作成

カードに記録された画像から、E メール添付に適したメール画像（画像サイズ 640 × 480）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

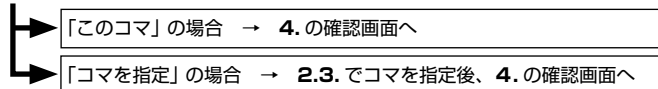
このコマ（1 コマのみ作成）: 再生中の画像を 1 コマだけメール用に新たに作成します。

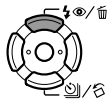
コマを指定：指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

[MENU] → [▶3] → [メール画像作成] → [右側へ] → [指定方法を選択] → [実行]

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」(P.31-32)、再生モード時のメニューの概要は→「再生時の設定内容一覧」(P.39)）

1. 上記の手順で希望のコマ指定方法を選択します。

「このコマ」の場合　→　**4.** の確認画面へ

「コマを指定」の場合　→　**2.3.** でコマを指定後、**4.** の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、左右キーでメール画像を作成するコマを選び、上キーを押して指定します。

左右キーで
画像を選択し、

上キーを押して
画像を指定します。

画像作成を指定したコマには ☑ が表示されます。

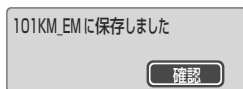
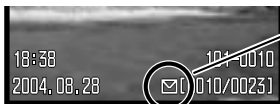
必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 下キーを押すと、画像の指定を取り消します。取り消された画像から ☑ の表示が消えます。

3. 実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 実行ボタンを押すと、**4.** の確認画面に進みます。
- メニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ元の画面にもどります。

（次ページへ続く →）

4. メール画像作成が完了すると、以下の確認の画面が表示されますので、実行ボタンを押します。

●メニューボタンを押すと、元の画面にもどります。

● 再生時、メール画像として作成された画像には、液晶モニターに ✉ が表示されます。

メール画像を作成すると、

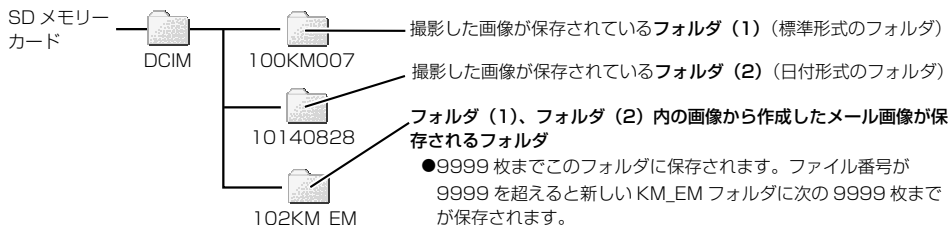
●カード内に "3 桁の数字 " + "KM_EM" という名称のフォルダが自動的に作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。先頭の数字 3 桁はフォルダの通し番号です。
（KM = Konica Minolta、EM = E-mail の意味）

●動画からメール画像を作成することはできません。

●プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。

●ボイスメモやアフレコで音声を付けた画像から作成されたメール画像には、元画像と同じ音声が付けられています。

●元画像とメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたメール画像は消去されずに残っています。

●作成されたメール画像は､カード内に作られる“KM_EM”という名前のフォルダにまとめて保存されます（KM=Konica Minolta、EM=E-mail の意味）。詳しくは→ P. 102

画像が多すぎます
指定し直してください

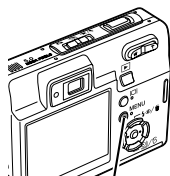
●左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

⚠ 作成できません

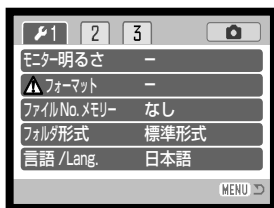
●左のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えているか、動画あるいはすでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成できません。

セットアップ編

セットアップモードではカメラの細かな設定を変更することができます。この章では、このセットアップモードについての詳しい説明をしています。

セットアップモードにするには

1.メニューボタンを押します。

●モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

2.十字キーの左右キーで、画面右上の SETUP を選んで反転します。

3.十字キーの実行ボタンを押します。

●セットアップ画面（上図）が表示されます。

4.P.31 の手順に従って、左右キーで の希望のタブを選び、上下キーで変更希望の項目を選び、右キーでその項目の設定可能項目一覧を表示させ、上下キーで選択した後、実行キーで設定を完了します。設定を完了した後は、メニューボタンを押して、直前のモードにもどります。

セットアップモード時の設定内容一覧

セットアップモード時に設定できる内容は以下の通りです。記されている参照ページに詳しい内容が説明されていますので、必要に応じてご覧ください。各項目の初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されているもの）は、[網掛け] で記された内容です。

1タブ

項目	設定内容
モニターの明るさ →P. 100	実行する
フォーマット →P. 100	実行する
ファイル No. メモリー →P. 103	あり［初期設定］／なし
フォルダ形式 →P. 104	標準形式［初期設定］／日付形式
言語 /Lang. →P. 105	日本語［初期設定］／English／Deutsch／Français／Español／中文

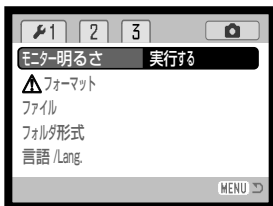
2タブ

項目	設定内容
操作音 →P. 105	音1［初期設定］／音2／なし
AF 音 →P. 105	音1［初期設定］／音2／なし
シャッター音 →P. 105	音1［初期設定］／音2／なし
音量 →P. 105	3（大きい）／2［初期設定］／1（小さい）
パワーセーブ →P. 106	30分／10分／5分／3分［初期設定］／1分

3タブ

項目	設定内容
設定値リセット →P. 107	実行する
日時設定 →P. 108	実行する
ビデオ出力 →P. 109	NTSC［初期設定］／PAL
USB 接続 →P. 109	カードリーダー［初期設定］／PC カメラ／PictBridge

●セットアップモードメニューでの設定は、カメラの電源を切ったりモード切り替えダイヤルでモードを切り替えても、保存されています。

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

[SETUP] → [1] → [モニター明るさ] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

1.上記手順で、モニターの明るさ設定画面を表示させます。

●左下図が表示されます。

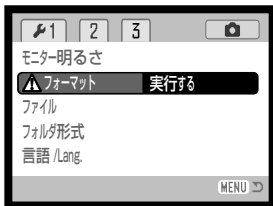
2.左右キーでモニターの明るさを調整します。

3.実行ボタンを押して設定を完了します。

●元の画面に戻ります。

●セットアップモードメニューから実行する代わりに、液晶モニターボタンを約 2 秒間押し続けると、上記の明るさ設定画面が現れて画面の明るさを調整できます。この場合は、明るさ設定画面で約 5 秒間何も操作をしないでいると、自動的に元の画面にもどります。

●液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→ *P. 61*

セットアップ編

カードのフォーマット（初期化）

カード内の画像やフォルダ *（→ P. 102）* をすべて消去するときなどに、SD メモリーカードのフォーマットが便利です。

フォーマットを行うと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

[SETUP] → [1] → [フォーマット] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

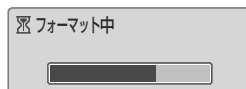
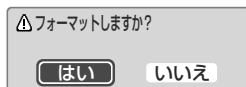
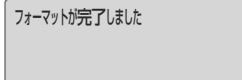
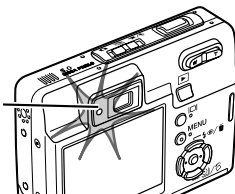
（次ページへ続く →）

1.フォーマットするカードをカメラに入れ、P.100 に記載の手順でフォーマットを選択します。

2.実行ボタンを押します。

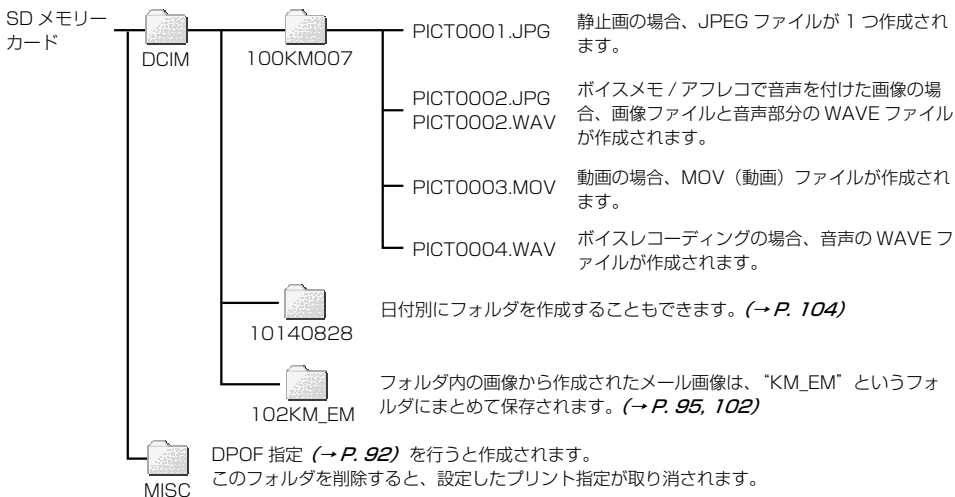
●元左図の画面が表示されます。

3.左キーを押して、[はい]を選択して、実行ボタンを押します。

●左図の「フォーマット中」の画面が表示され、フォーマットが無事完了すると、下図のように「フォーマットが完了しました」が表示されます。

●カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識できないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

●フォーマット中は赤色のアクセスランプが点滅します。点滅中はカードを取り出さないでください。

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像 1 つにつき 1 つまたは 2 つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

●以下は、カードの内容をパソコンで表示させたときのフォルダ構成です。

フォルダ名について

標準形式の例：

100 KM007

フォルダの通し番号（100 ～）　識別文字

日付形式の例：

101 40828

フォルダの通し番号（100 ～）　年（西暦の下 1 桁）月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合“フォルダの通し番号 3 桁”＋“識別文字 5 文字”、
日付形式の場合“フォルダの通し番号 3 桁”＋“年（西暦の下 1 桁）月日”となります。

セットアップ編

（次ページへ続く →）

通し番号は“100”から始まり、フォルダが作成されるたびに 1 つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は“**KM007**”です。“**KM**”はコニカミノルタを、“**007**”はこのカメラ(DiMAGE X50) を表します。
標準形式 / 日付形式いずれのフォルダの場合も、メール画像の入るフォルダの識別文字は“KM_EM”です。
- ●標準形式フォルダの識別文字 5 文字、および、日付形式フォルダの年月日 5 文字は、カメラをパソコンに接続してカード（の内容）を表示させたときに確認できます。
- ●フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか *(→ P. 112 〜)*、カメラ側でカードをフォーマットしてください *(→ P. 100)*。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG —— 拡張子（ファイルの種類を識別する部分）
　　　ファイル番号（0001 〜）

PICT の後の 4 桁の通し番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに 1 つずつ増えて行きます。
- ●カメラ側で消去された画像のファイル番号は欠番となります。フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び 0001 から始まります（ファイル No. メモリーを「なし」に設定している場合。→ *P. 103*)。
- ●“PICT9999”まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（102 ページの例では標準形式の場合“103KM007”)、その中で再び“PICT0001”から画像の記録が開始されます。
- ●各フォルダ内では、常にファイル名は“PICT0001”から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（ファイル No. メモリーを「なし」に設定している場合。→ *P. 103*)。

※続き番号にするには→ファイル No. メモリーを「あり」にする、P.103
- ●お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

ファイル No. メモリー

初期設定のファイル No. メモリー［あり］では、フォルダが変わってもファイル名の番号を連続してとります。［なし］を選ぶと、ファイル名はフォルダが変わるたびに再び“PICT0001”から始まります。

あり：ファイル No. メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

なし：ファイル No. メモリーは機能しません。メール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は 0001 に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

[SETUP] → [1] → [ファイル No. メモリー] → [右側へ] → [ありまたはなし] → [実行]

(※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」(P.98)、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」(P.99))

(次ページへ続く →)

ファイルとフォルダ

イメージ図　　ファイル No. メモリー「あり」　　　　ファイル No. メモリー「なし」

フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

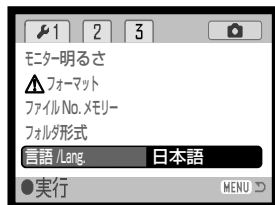
初期設定の標準形式フォルダ（100KM007 など）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

[SETUP] → [1] → [フォルダ形式] → [右側へ] → [標準形式または日付形式] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

●初期設定では、日付が変わってフォルダが変わるたびに、中のファイル番号は PICT0001 にもどります。
※続き番号にするには→ファイル No. メモリーを「あり」にする、P.103

●日付形式フォルダは、カメラの日付・時刻を正確に合わせた状態でお使いください。
※カメラの日付・時刻の設定方法→「日時の設定」P. 108

言語設定

画面に表示される言語を、6カ国語の中から選ぶことができます。初期設定は［日本語］です。

[SETUP] → [1] → [言語設定 /Lang.] → [右側へ] → [現在選択されている言語が表示されています] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

1. 上記手順で、［言語 /Lang.］を選び、右キーを押して、［現在選択されている言語］を表示させます。

●初期設定では［日本語］が表示されます。

2. 実行ボタンを押して、言語選択メニューを表示させます。

●左図の言語選択メニューが表示されます。

3. 左右上下キーを押して設定したい言語を反転して選択し、実行ボタンを押します。

●選択された言語に従って言語設定が完了し、選択された言語で画面の表示がされます。

4. メニューボタンを押して、セットアップメニューの初期画面にもどります。

操作音と音量の設定

カメラを操作したり撮影のためシャッターを切ると、操作音 /AF 音 / シャッター音が鳴ります。その音の種類や音量を変えたり、音が鳴らないようにすることができます。操作音 /AF 音 / シャッター音は［音 1］［音 2］［なし］の 3 つから選べます。音量は 3 段階から選ぶことができ、操作音 /AF 音 / シャッター音に反映されます。

初期設定は、操作音 /AF 音 / シャッター音は［音 1］、音量は［2］です。

（次ページへ続く →）

操作音と音量の設定

操作音 [SETUP] → [🔧2] → [操作音] → [右側へ] → [音 1 または音 2 またはなし] → [実行]

各ボタンを押したときに鳴る音

●音 1（機械音をベースにした音）
●音 2（電子音をベースにした音）
●なし（操作音は鳴りません）

AF 音 [SETUP] → [🔧2] → [AF 音] → [右側へ] → [音 1 または音 2 またはなし] → [実行]

ピントが合ったときに鳴る音

●音 1（電子音で「ピーン」と鳴ります）
●音 2（電子音で「ピッピッ」と鳴ります）
●なし（AF 音は鳴りません）

シャッター音 [SETUP] → [🔧2] → [シャッター音] → [右側へ] → [音 1 または音 2 またはなし] → [実行]

ピントが合ったときに鳴る音

●音 1（ミノルタ CLE のシャッター音）
●音 2（電子的なシャッター音）
●なし（シャッター音は鳴りません）

音量 [SETUP] → [🔧2] → [音量] → [右側へ] → [3 または 2 または 1] → [実行]

操作音 /AF 音 / シャッター音の音の大きさを調整します

● 3（大きい）
● 2
● 1（小さい）

パワーセーブ

セットアップ編

初期設定では、約 3 分以上何も操作をしないでいると、節電のため、液晶モニターの表示が消灯し、低消費電力状態になります（=パワーセーブ）。このパワーセーブまでの時間を、1 分、3 分、5 分、10 分、30 分のいずれかに変更することができます。

[SETUP] → [🔧2] → [パワーセーブ] → [右側へ] → [希望の時間] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

●パワーセーブ後に操作を再開したいときは、シャッターボタンを押すか再生ボタンを押してください。撮影モードまたは再生モードに復帰し、液晶モニターに表示がされます。

設定値リセット

⚠ 設定を初期値に戻しますか？

はい　いいえ

カメラのほとんどの設定を、初期設定（お買い上げ時の設定）にもどすことができます。

[SETUP] → [3] → [設定値リセット] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

（※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」（P.98）、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」（P.99））

1. 上記の手順で、設定値リセットを実行します。

●左図上の確認画面が現れます。

2. 左キーで［はい］を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

●設定値リセットが完了すると、右図の画面が現れます。実行ボタンを押して、元の画面にもどります。

初期値にしました

リセットされる内容は以下の通りです。

項目	設定	ページ
ボタンで設定するもの		
フラッシュモード	自動発光	48
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア	50
液晶モニター表示（撮影時）	液晶モニター ON（表示あり）	30
液晶モニター表示（再生時）	1 コマ再生（表示あり）	73
撮影モードメニュー		
ドライブモード	1 コマ撮影	51
画像サイズ	2560 x 1920	55
画質	スタンダード	56
ホワイトバランス	AUTO	58
キーカスタマイズ	なし	58
撮像感度	AUTO	59
測光モード	多分割	61
露出補正	± 0.0	61
オートリセット	あり	62
カラーモード	カラー	63
ボイスメモ	なし	64
日付写し込み	なし	65
デジタルズーム	なし	65
アフタービュー	なし	66

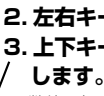
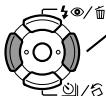
項目	設定	ページ
動画モードメニュー		
切り替え	動画	67
フレームレート	15fps	69
ナイトムービー	OFF	69
ホワイトバランス	AUTO	70
露出補正	± 0.0	70
カラーモード	カラー	70
再生モードメニュー		
日付プリント	なし	94
コマ送り効果	ランダム	85
セットアップモードメニュー		
モニター明るさ	標準	100
ファイル No. メモリー	なし	103
フォルダ形式	標準形式	104
操作音	音 1	106
AF 音	音 1	106
シャッター音	音 1	106
音量	2	106
パワーセーブ	3 分	106
USB 接続	カードリーダー	109

日時の設定

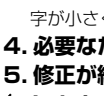
日付・時刻設定を促すメッセージが現れた場合

カメラを購入後初めて使用されるときや、電池を抜いたまま長時間放置した後でカメラを使うときなど、左図のメッセージが現れます。日付・時刻は以下の手順で設定できます。

1. 左上のメッセージで、十字キーの左キーで［はい］を反転させて選択し、十字キー中央の実行ボタンを押します。

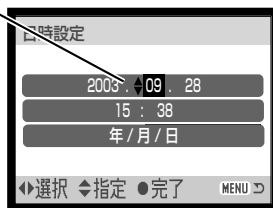
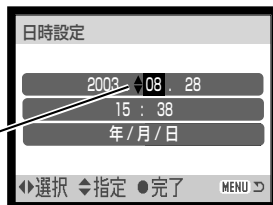
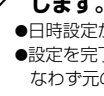
●右図のように、日時設定画面が表示されます。

2. 左右キーで修正したい項目を選びます。

3. 上下キーで数値（または日付並びの種類）を設定（変更）します。

●数値の場合を上キーを押すと数字が大きくなり、下キーを押すと数字が小さくなります。キーを押し続けると､数値が早送りされます。

4. 必要なだけ 2. ～ 3. の操作を繰り返します。

5. 修正が終わったら、実行ボタンを押して、設定を完了します。

●日時設定が完了し、時計がスタートします。

●設定を完了する前に途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわず元の画面にもどります。

上記「日付 / 時刻を設定してください」のメッセージで［いいえ］を選んだときや、日時の変更が必要になった場合は、次の手順で日時設定画面を表示させて日時を修正してください。

セットアップメニューで日時設定画面を設定する場合

セットアップメニューでは、下記の手順で、日時設定画面を表示することができます。設定方法は、上記をご覧ください。

[SETUP] → [3] → [日時設定] → [右側へ] → [実行する] → [実行]

(※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」(P.98)、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」(P.99))

セットアップ編

ビデオ出力

AV 出力端子からのビデオ信号を、「NTSC」と「PAL」とで切り替えることができます。

NTSC：

日本やアメリカ等で採用されています。初期設定は NTSC です。

PAL：

ヨーロッパの多くの国々で採用されています。

●ビデオの信号形式は互いに互換性はありませんので、このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式を設定してください。

[SETUP] → [3] → [ビデオ出力] → [右側へ] → [NTSC または PAL] → [実行]

(※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」(P.98)、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」(P.99))

上記の手順で、希望のビデオ出力を選びます。

USB 接続

USB 接続したときの、カメラの動作モードを設定します。

カードリーダー：

カメラとパソコンを接続して、カード内の画像をパソコンに取り込む（＝コピーや移動など）場合には、「カードリーダー」にします。*→ P. 41, 111*

PC カメラ：

Windows Messenger、Windows NetMeeting と連動して、画面に映像を表示させる場合には、「PC カメラ」を選びます。*→ P. 124*

PictBridge：

PictBridge 対応プリンターと接続してカード内の画像を印刷する場合は、「PictBridge」を選びます。*→ P. 45, 128*

[SETUP] → [3] → [USB 接続] → [右側へ] → [希望の設定] → [実行]

(※セットアップメニュー画面操作についての詳細は→「セットアップモードにするには」(P.98)、セットアップメニュー時のメニューの概要は→「セットアップモード時の設定内容一覧」(P.99))

上記の手順で、希望の動作モードを選びます。

その他編

この章では、パソコンとの操作、画像入力装置としての機能（PCカメラ）、PictBridge 印刷、メッセージ一覧、取扱い上の注意などのその他の内容について詳しい説明をしています。

パソコンとの操作

動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属の USB ケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には必ず付属の USB ケーブル USB-3 をお使いください（USB マスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM-PC/AT 互換機	Apple Macintosh
OS	Windows XP（Home, Professional）、2000 Professional、Me、98/98 SE がインストール済み	Mac OS 9.0 ～ 9.2.2、Mac OS X v10.1.3 ～ v10.1.5、v10.2.1 ～ v10.2.8、v10.3 ～ v.10.3.3 がインストール済み
その他	USB ポート標準装備	

- ご使用の OS の環境において、USB ポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われる USB 機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USB ポートはパソコン本体に標準装備されたポートのみサポートします。ハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- 上記環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、下記の弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

http://ca.konicaminolta.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

（次ページへ続く →）

Windows XP、Me、2000 Professional の場合

USB ケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→*下記「パソコンに接続する」*
- USB 2.0 対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

動画の再生には QuickTime が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属の CD-ROM よりインストールしてください。→*P. 123*

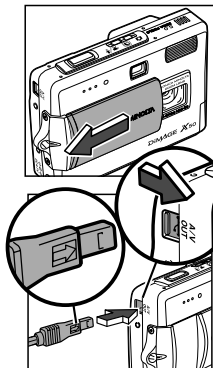
Windows 98/98 Second Edition の場合

付属のディマージュビューア CD-ROM から、専用の USB ドライバをパソコンにインストールする必要があります。→*P. 119*
その後 USB ケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→*下記「パソコンに接続する」*
- USB 2.0 対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

動画の再生には QuickTime が必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属の CD-ROM よりインストールしてください。→*P. 123*

Macintosh の場合

USB ケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→*下記「パソコンに接続する」*
- USB 2.0 対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

パソコンに接続する（USB 接続）

1. パソコンの電源を入れます。

2. カメラのスライドカバーを開けて、電源を入れます。
- モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

3. USB ケーブルの大きい方のコネクタをパソコンの USB ポートに差し込みます。
- 奥まで確実に差し込んでください。

4. カメラの USB/AV 出力端子のカバーを左図のように開けて、USB ケーブルの小さい方のコネクタを差し込みます。
- 奥まで確実に差し込んでください。
- USB ケーブルのコネクタが USB/AV 出力端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の ⇨ マークがカメラ前面側になっているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。

（次ページへ続く →）

●USB 接続は、接続する際には、カメラとパソコンの電源を入れたまま行えますが、取り外す際には、必ず P. 43, 116 の「USB 接続の外し方」の手順に従って外してください。

● USB 接続が確立されると、液晶モニターに が現れます。
●“USB 接続中”のメッセージがいつまでも消えない場合は、USB ケーブルが確実に差し込まれているか確認してください。

●USB 接続中は、カメラを約 10 分間程度操作しないでいると自動的にカメラが OFF になります（OS によっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます）。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は自動的にカメラが OFF になることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB 接続を解除されることをおすすめします。*→P. 43, 116*
●Windows 98/98 Second Edition 使用時に、接続後［新しいハードウェアの追加ウィザード］の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。*→ドライバをインストールしていない場合は 119 ページへ、すでにしている場合は 121 ページへ*

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル（動画ファイルを含む）を、パソコンにコピーして保存します。

●カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りの AC アダプター AC-4 の使用をおすすめします。
●カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（アクセスランプ点灯中）には、カメラのメインスイッチを切る、USB ケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
●カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なってください *(→P. 100)*。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
●パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。

Windows XP の場合

1. ［フォルダを開いてファイルを表示する］を選び、［OK］をクリックします。

●［コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする］でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
●パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の［スタート］→［マイ コンピュータ］→［リムーバブルディスク］を開いてください。［リムーバブルディスク］が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。

（次ページへ続く →）

その他編

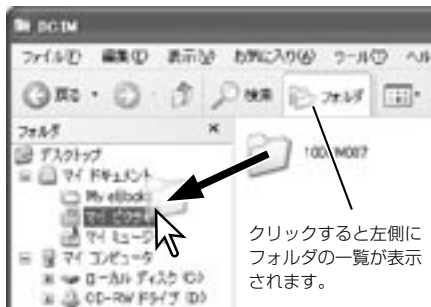
2.［DCIM］フォルダをダブルクリックして開きます。

●リムーバブルディスクの後のアルファベット（左図の例では F:）は、ご使用のパソコンによって異なります。
●［DCIM］以外のフォルダ（［MISC］など）は削除しないでください。

3.［100KM007］等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM007］です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
●フォルダを開けると、［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。

4.保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンの希望のフォルダにコピーします。

●フォルダごとコピーする場合は、［100KM007］等のフォルダを、まるごと［マイ ドキュメント］や［マイ ピクチャ］等の希望のフォルダに、ドラッグ＆ドロップでコピーします。

【フォルダごとコピーする場合】

［100KM007］を［マイ ピクチャ］にコピーする例

【ファイルごとにコピーする場合】

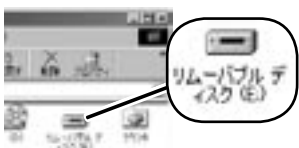
［PICT0001.JPG］を［マイ ピクチャ］にコピーする例
●画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

●コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、「元の画像を上書きしてもいいですか」の確認のメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows 2000 Professional/98/98 Second Edition の場合

1.デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

●カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（右上の例では E）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は → P.155

2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

●「DCIM」フォルダが現れます。

DCIM

3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

●その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。

100KM007

4. [100KM007] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

●フォルダ名の初期設定は［100KM007］です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。*→P.102*

●フォルダを開けると [PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は“.JPG”）が付く場合と付かない場合があります。

5.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。

［100KM007］［PICT0001.JPG］を［マイ ドキュメント］にコピーする例

その他編

●同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
●［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintosh の場合

カード内のフォルダを直接開ける場合

Macintosh では、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）
●現れない場合は、Mac OS を再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

2. 前ページの 3. ～ 5. の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。
●［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

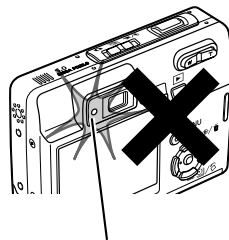
イメージキャプチャアプリケーションを利用する場合（Mac OS X のみ）

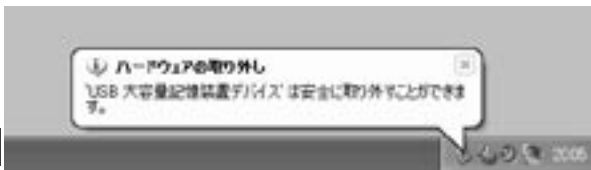
Mac OS X では、カメラとパソコンを接続すると、上図のイメージキャプチャ（Image Capture）アプリケーションが起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード ...］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは、Mac OS のヘルプ画面等をご覧ください。

パソコンとの接続を解除する

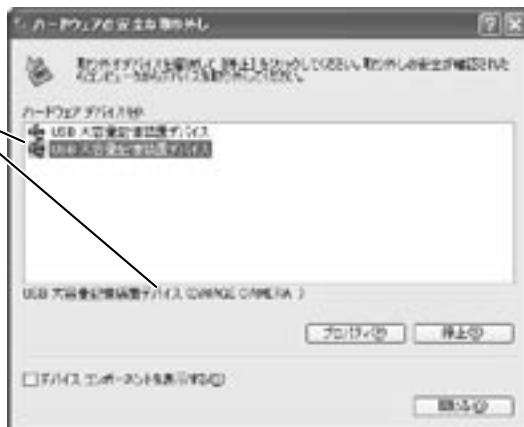
必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領で USB 接続を解除されることをおすすめします。USB 接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows XP/Me/2000 Professional の場合

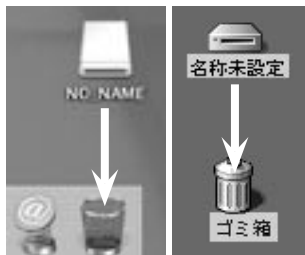
お使いの Windows® OS によって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USB 大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します）］または［USB ディスクの停止］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。
5. USB ケーブルを取り外します。
6. カード交換時は、スライドカバーを閉じてカメラの電源を切ってからカードを交換します。

●複数の USB 機器を接続している場合は、前ページの 2. で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USB 大容量デバイス（DiMAGE CAMERA）を選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USB ケーブルを取り外す。

Windows 98/98 Second Edition の場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. USB ケーブルを取り外します。
3. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

Macintosh の場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USB ケーブルを取り外します。
4. カード交換時は、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってからカードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開く

1. 画像を保存したフォルダ（My Pictures など）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

●各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

画像ファイルを開くのに必要なソフトウェア

JPEG ファイル

このカメラで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトウェアで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のディマージュビューアー CD-ROM 内の「DiMAGE Viewer」をインストールしてお使いください。*→ディマージュ ビューアー（DiMAGE Viewer）の使用説明書をご参照ください。*

MOV ファイル

動画撮影の画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するには QuickTime 等の動画再生ソフトウェアが必要です。お使いの Windows パソコンにインストールされていない場合は、付属のディマージュビューアー CD-ROM 内の QuickTime をインストールしてお使いください。*→ P. 123*

- ●DiMAGE Viewer で動画を見る場合も、先に QuickTime をインストールしておく必要があります。
- ●Macintosh の場合、通常 QuickTime はインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAV（WAVE）ファイル

ボイスレコーディングや音声付き画像の音声部分で、最後に「.WAV」が付きます。OS に付属の音声再生ソフトウェア（Windows Media Player, QuickTime Player 等）で再生できます（音声付き画像の音声部分の場合、画像と同時に再生することはできません）。

ドライバのインストール（Windows 98/98SE のみ）

Windows 98/98 Second Edition をお使いの場合、付属のディマージュビューアー CD-ROM から、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。

1. ディマージュビューアー CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

●左の画面が現れます。

2. [USB デバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。

●このカメラ（DiMAGE X50）の Windows98/98SE 用のドライバをインストールした後に、それ以前の DiMAGE シリーズデジタルカメラ用の Windows98/98SE 用ドライバをインストールすると、DiMAGE X50 の USB 接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。

●お使いのパソコンの環境によっては、インストール中に Windows システム CD-ROM をセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアー CD-ROM を Windows システム CD-ROM に差し替え、メッセージに従って操作してください。

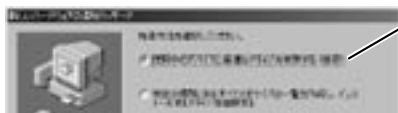
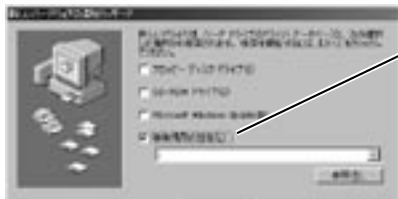
ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラとパソコンを接続します。→*P.111 〜*

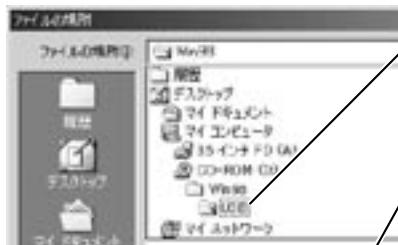
接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、上述の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左図の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

（次ページへ続く →）

ドライバのインストール（Windows98/98SE のみ）

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGE ビューアー CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

4. [検索場所の指定]を選択し、[参照]をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

●お使いのパソコンの環境によっては、インストール中に Windows システム CD-ROM をセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はディマージュビューアー CD-ROM を Windows システム CD-ROM に差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB 接続ができないときは

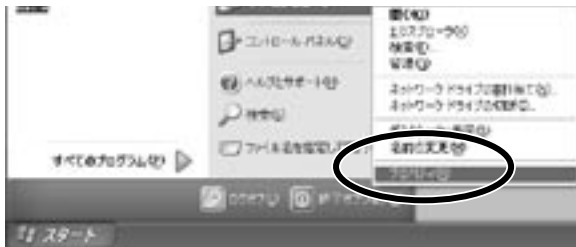
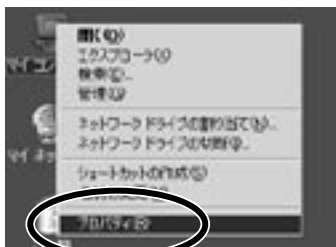
Windows パソコンをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法で USB ドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社カメラ統合ポータルサイトの次のページも合わせてご覧ください。
→ http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→ P.111

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

2. [マイコンピュータ] を右クリックし、[プロパティ] を選びます。

- Windows XP の場合は、[スタート] から [マイコンピュータ] を選び、右クリックすると [プロパティ] が現れます。
- Windows Me、2000、98、98SE の場合は、デスクトップ上の [マイコンピュータ] を右クリックすると [プロパティ] が現れます。

Windows XP

Windows Me、2000、98、98SE

3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

- Windows XP、2000 の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows Me、98、98SE の場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

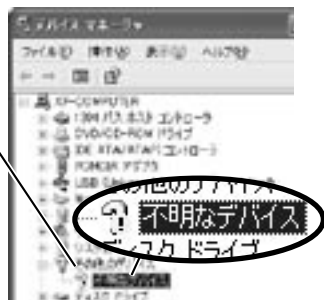
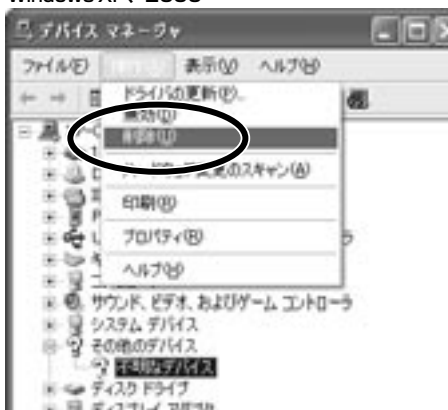
Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

4.「USB コントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかにカメラ名称（DiMAGE）を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。

●項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
●カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」または「!」マークで表示されている項目を選んでください。
●該当する項目が見つからない場合は、カメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

5.4 で選んだ項目を削除します。

●Windows XP、2000 の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
●Windows Me、98、98SE の場合は、「削除」をクリックします。

Windows XP、2000

Windows Me、98、98SE

6.削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7.カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

●Windows XP、2000、Me の場合は、この後 111 ページの要領で、再度 USB 接続を行ないます。
●Windows 98/98SE の場合は、この後ドライバをインストールし *(→P. 119)*、その後再度 USB 接続を行ないます *(→P. 111)*。

QuickTime のインストール（Windows のみ）

動画の再生には QuickTime 等の動画再生ソフトが必要です。Windows で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属の CD-ROM からインストールしてください。

- Macintosh の場合、通常は QuickTime はインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

- Pentium プロセッサを搭載した PC 互換コンピュータ
- 128MB 以上のメモリ（RAM）
- Windows XP/Me/2000 Professional/98/98 Second Edition 各オペレーティングシステム

1. DiMAGE ビューアー CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. ［QuickTime インストーラの起動］をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストール途中に【インストール種類の選択】画面が現れますが、そこでは［基本的なインストール］を選択してください。［最小限のインストール］でインストールした場合、 DiMAGE Viewer での動画再生・補正時に一部機能が正常に動作しないことがあります。

操作方法

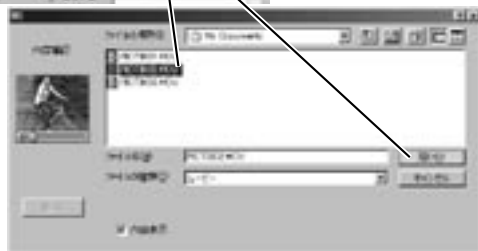
操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

1. QuickTime を起動させます。

- QuickTime Player のアイコンをダブルクリックするか､画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. ［ファイル（F）］から［新規 Player でムービーを開く ...（O）］を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、［開く］をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

PC カメラ機能（Windows のみ）

カメラがパソコンへの画像入力装置（PC カメラ）になります。Windows NetMeeting, Windows Messenger と連動して、カメラで撮っている映像（動画）を、これらソフトウェアに取り込むことができます。

●ここでは、「Windows NetMeeting」を使用した場合について説明しています。

PC カメラ 動作環境

- ●Pentium II プロセッサ /300MHz 以上を搭載した、IBM PC/AT 互換機
- ●Windows XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition オペレーティングシステム
- ● 128MB 以上（Windows XP では 256MB 以上）の実装メモリ
- ●200MB 以上のハードディスク空き容量
- ●800x600 ドット以上、High Color（16bit）以上（Windows XP では中（16bit）以上）を表示可能なディスプレイ
- ●CD-ROM ドライブ（ドライバインストール時に必要）
- ●動作確認済みアプリケーション：Windows NetMeeting、Microsoft Windows Messenger

このカメラを PC カメラとしてパソコンへの画像入力装置に使用する際は、長時間の操作が想定されますので、別売りの AC アダプター AC-4 のご使用をおすすめします。新品電池をフル充電して使用した場合の使用可能時間は、約 80 分です（液晶モニター ON、ズームとピントは固定）。

PC カメラドライバのインストール

1. DiMAGE ビューアー CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。

●左の画面が現れます。

2. [DiMAGE PC Camera ドライバインストーラの起動] をクリックします。

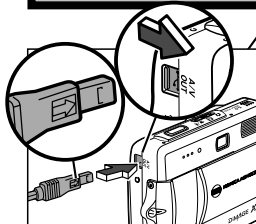
3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

Windows NetMeeting でカメラを使う

1. パソコンの電源を入れます。

2. スライドカバーを開けて、カメラの電源を入れます。

3. 109 ページの要領で、セットアップモードメニュー→［3］→［USB 接続］から［PC カメラ］を選び､実行ボタンを押します。

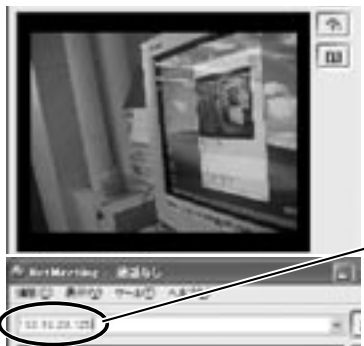
4. 付属の USB ケーブルの小さい方のコネクタをカメラの USB 端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体の USB ポートに差し込みます。

●USB ケーブルは奥まで確実に差し込んでください。
●カードは入れなくても構いません。
●液晶モニター左上にが、上部に PC カメラが表示され、カメラが PC カメラモードになったことをお知らせします。
●アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）を起動する前に、PC とカメラを USB ケーブルで接続し、カメラを PC カメラモードにしてください。

5. Windows NetMeeting を起動します。

●以下、通話の相手先も Windows NetMeeting を使用・すでに起動しており、PC カメラ機能を持つ同様のカメラを接続していることを前提に説明します。

6. NetMeeting の［ツール（T）］メニューから［ビデオ（V）］→［送信（S）］を選びます。または、ビデオの開始ボタン をクリックします。

●NetMeeting の画面に、このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます（左下図）。
●カメラ本体の上下レバーでレンズのズーミングができます。シャッターボタンの半押しでオートフォーカスのピント合わせが行われます。

NetMeeting の画面からズームとピント合わせの操作をするには→ 127 ページ

7. 通話したい相手のパソコンの IP アドレスを入力して Enter キーを押します。

（次ページへ続く →）

8. 相手に「○○○○ からの通話を受信中」というメッセージが届きますので、[応答する(A)]をクリックしてもらいます。

- 相手のカメラの映像が表示されます。
- NetMeeting の使い方の詳細については、NetMeeting の「ヘルプ」をクリックしてください。
- PC カメラの操作を終了するには、アプリケーション（Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger）を終了させ、カメラの電源を切ってから USB ケーブルを取り外してください。

このカメラで撮っている映像（動画）が表示されます。

ネットワークで接続されている相手も PC カメラ機能を持つ同様のカメラを接続して使用している場合は、相手のカメラの映像（動画）が表示されます。
これにより、相手の顔を見ながら話すなどパソコンをテレビ電話代わりにしたり、簡易なテレビ打ち合わせシステムとして利用することができます。

※カメラをパソコンにつないで PC カメラモードにしてからアプリケーション (Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger) を起動してください。アプリケーション (Windows NetMeeting, Microsoft Windows Messenger) を起動してからカメラを接続しても、カメラの映像は表示されません。
※カメラのマイクは使用できません。音声をやり取りしたい場合は、各パソコンに対応したヘッドセット等を別途お買い求めください。

- 通話する両者が同じアプリケーションを使用する必要があります。一方が Windows Messenger で、もう一方が Windows NetMeeting では、通話がつながりません。
- Windows Messenger は Windows XP 上でのみ動作します。Windows NetMeeting は、Windows 98/Me/2000/XP 上で動作します。
- インターネットプロバイダから割り当てられている IP アドレスがプライベートアドレスの場合、プロバイダ側の制限で PC カメラの機能を使えないことがあります。詳細はご契約しているプロバイダにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターを利用して家庭内等でネットワークを構築している場合、プライベート IP アドレスで、かつ、ルーターを使って 2 台以上のパソコンを使用していると、PC カメラの機能を使えません。
- ブロードバンドルーターを通して Windows Messenger や Windows NetMeeting を使うには、そのルーターがユニバーサル・プラグアンドプレイ（UPnP）に対応している必要があります。詳しくはルーターのメーカーにお問い合わせください。
- ブロードバンドルーターにファイアウォール機能が備わっている場合は、新たにポートの設定が必要になることがあります。詳細はルーターの取扱説明書等をご覧ください。
- PC カメラの機能を十分に活用いただくには、ADSL、CATV インターネット、FTTH（光ファイバー）などの高速回線でお使いいただくことをおすすめします。

（次ページへ続く →）

NetMeeting の画面から、レンズのズーミング（光学 / デジタル）とピント合わせが行えます。

1. NetMeeting の画面で［ツール（T）］ー［オプション（O）…］を選び、オプション画面を表示させせます（画面が表示されるまで時間がかかることがあります）。
2. ［ビデオ］タブをクリックします。
3. ［ビデオカメラのプロパティ］の［使用するビデオキャプチャカード（C）：］の箇所に、Minolta DiMAGE PC camera driver と表示されていることを確認し、その下の［ソース（U）…］をクリックします。
4. 表示されるカメラドライバの画面で［カメラ制御］タブをクリックします。

- ［拡大］スライダーを右側にドラッグすると望遠側に、左側にドラッグすると広角側にレンズがズームします（スライダーを操作してから実際にレンズがズームされるまで多少時間がかかります）。
- ［フォーカス］の自動□にチェックを入れると、1 回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。

レンズをズームさせた直後にも 1 回だけピント合わせが行われます。そこでピントが合わなかった場合は、自動□にチェックを入れると、もう 1 回だけピント合わせが行われます。再度ピント合わせを行うには、いったん自動□のチェックを外してもう一度チェックを入れ直します。

PictBridge 対応プリンタで印刷する

カメラを付属の USB ケーブルで PictBridge 対応プリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明します。

カメラを PictBridge モードにする

P. 45 や P. 109 の手順に従って、カメラを PictBridge モードに設定します。

- PictBridge 対応のプリンタと接続して画像のプリントを行なう場合は、P. 45 や P. 109 の手順で、[USB 接続] を **[PictBridge]** に設定してください。
- カメラとパソコンを接続してカメラ内の画像をパソコンへコピーする場合は、同様の手順で [USB 接続] を **[カードリーダー]** に設定してください。→ P.109
- PictBridge 対応のプリンタとカメラとを接続して画像をプリントする場合は、**「JPEG 画質の静止画」** のみプリントできます。

カメラとプリンタを接続する

P.46 の手順に従って、カメラとプリンタを接続します。

表示中の画像 1 コマを印刷する

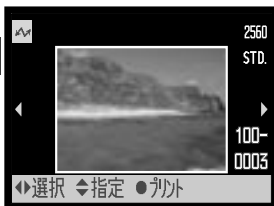
P.47 の手順に従って、表示中の画像 1 コマを印刷します。

印刷するコマと枚数をあらかじめ指定してプリントする

印刷したい画像とその枚数をあらかじめ指定して、それらをまとめて一度にプリントできます。画面左上に印刷合計枚数が表示されます。

1. 十字キーの左右キーでプリントしたい画像を選びます。

- 印刷指定できないコマの場合は、画面に表示されません。

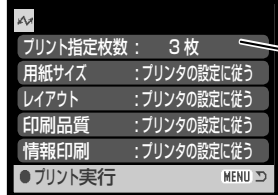
（次ページへ続く →）

2.十字キーの上下キーで印刷枚数を指定します。

- 上キーを押すと枚数が増え、下キーを押すと枚数が減ります。枚数は 1 コマ当たり最大 20 枚まで指定できます。
- あるコマの枚数を指定し、左右キーどちらかを押すと、画面左上に Total と印刷合計枚数（左図の例では 3）が表示されます。

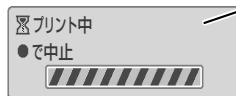
3.印刷したい他のコマにも、必要なだけ 1. と 2. の操作を繰り返します。

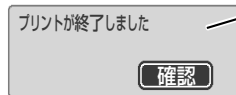
4.印刷したい画像とその枚数をすべて指定し終えたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

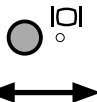
- 印刷設定確認画面（左図）が表示されます。

プリント指定枚数： 3 枚
用紙サイズ ：プリンタの設定に従う
レイアウト ：プリンタの設定に従う
印刷品質 ：プリンタの設定に従う
情報印刷 ：プリンタの設定に従う
●プリント実行 MENU

5.もう一度実行ボタンを押して、プリントを開始します。

- プリント中は左図の「プリント中」の画面が表示されまうす。
- 途中でプリントを中止したい場合は実行ボタンを押します。

プリント中
●で中止

- 指定枚数分の印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が表示されます。

プリントが終了しました
確認

6.実行ボタンを押してプリントを終了します。

- 液晶モニターボタンを押すたびに、1 コマ表示（左）とインデックス表示（右）とが切り替わります。

ダイレクトプリントメニュー

ダイレクトプリントモード時（画面左上に が表示されているとき）にメニューボタンを押して、設定できる内容は以下の通りです。記されている参照ページに詳しい内容はが説明されていますので、必要に応じてご覧ください。各項目の初期設定（＝カメラを買われた際に最初に設定されているもの）は、　　　で記された内容です。

- ●お使いの PictBridge 対応プリンタによっては、選ぶことのできない設定がある場合もあります。

（※メニューボタンによるメニュー画面操作についての詳細は→「メニューで設定を変えてみましょう」（P.31-32））

1 タブ

項目	設定
一括枚数指定	全コマ
→P. 131	全コマ取り消し
インデックスプリント	実行する
→P. 132	

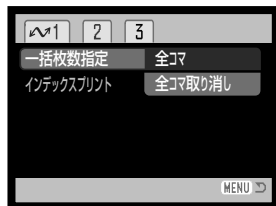
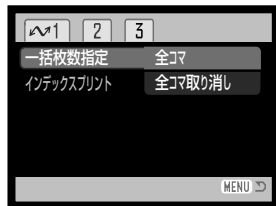
2 タブ

項目	設定
用紙サイズ	プリンタの設定に従う
→P. 133	L
	はがき
	2L
	A4
	Card size
	100mmx150mm
	4"x6"
	8"x10"
	Letter
レイアウト	プリンタの設定に従う
→P. 133	フチなし 1 コマ /1 枚
	1 コマ /1 枚
	2 コマ /1 枚
	4 コマ /1 枚
印刷品質	プリンタの設定に従う
→P. 133	FINE
情報印刷	プリンタの設定に従う
→P. 134	なし
	日付
	ファイル名
	日付＋ファイル名

3 タブ

項目	設定
DPOF プリント	実行する
→P. 134	

一括枚数指定

印刷（指定）可能なすべての画像の印刷枚数を一括して指定、および、一括して解除できます。

20 コマ× 2 枚で、印刷合計枚数は 40 枚になります。

全コマ指定

1.メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［1］→［一括枚数指定］から［全コマ］を選んで実行ボタンを押します。

●枚数を指定する表示が現れます。
●動画を除く静止画全コマの印刷枚数を指定できます。

2.上下キーで枚数を設定し、実行ボタンを押します。

●全コマに同じ印刷枚数が設定されます（最大 20 枚）。

MENU

3.メニューボタンを押してダイレクトプリントの画面にもどります。

●左図は、印刷（指定）可能な画像が全部で 20 コマあり、印刷枚数を 2 枚に一括指定した場合の画面です。

全コマ取り消し

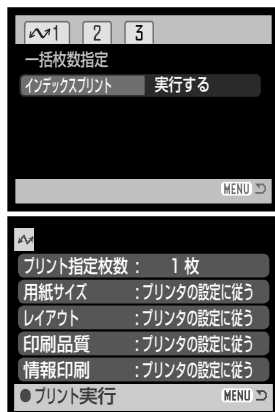
1.メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［1］→［一括枚数指定］から［全コマ取り消し］を選んで実行ボタンを押します。

●以下の確認画面が表示されます。

2.左キーで［はい］選んで、実行ボタンを押します。

●全コマの枚数指定が取り消されます。

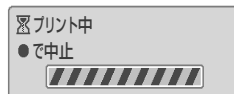
インデックスプリント

カード内の全画像を、一度にまとめて印刷（インデックスプリント）できます。

1. メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［∿1］→［インデックスプリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。

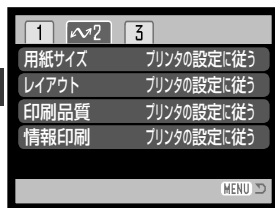
●左下図ように印刷設定確認画面が表示されます。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

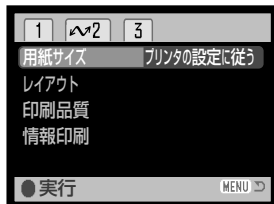
●プリント中は右の画面が表示されます。

●インデックスプリントが終了すると、「プリントが終了しました」の画面が表示されます。

3. 実行ボタンを押して、プリントを終了します。

印刷設定

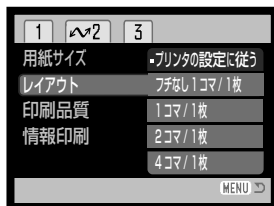
PictBridge 採用のプリンタと接続時は、メニューの［∿ 2］画面で、カメラ側から用紙サイズ、レイアウト、印刷品質、情報品質の各設定が行えます。

●接続しているプリンタによっては、カメラ側からの設定ができない項目もあります。

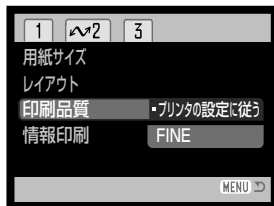
●プリンタ側で設定を行なう場合やプリンタ側で設定を変える場合は、［プリンタの設定に従う］を選んでください。

●特に［用紙サイズ］については、このメニュー画面での設定と実際にプリンタにセットされている用紙とが異なることのないようにご注意ください。

用紙サイズ

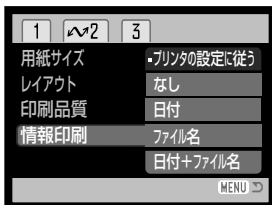
1. メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［2］→［用紙サイズ］を選び、実行ボタンを押します。

●左下図ように、用紙サイズ選択画面が表示されます。

2. 左右キーと上下キーで希望の用紙を選択し、実行ボタンを押して決定します。

レイアウト

メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［2］→［レイアウト］から［希望のレイアウト］を選び、実行ボタンを押します。

印刷品質

メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［2］→［印刷品質］から［希望の印刷品質］を選び、実行ボタンを押します。

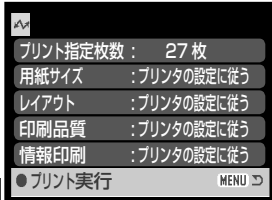
（次ページへ続く →）

メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［2］→［情報印刷］から［画像といっしょに印字したい情報］を選び、実行ボタンを押します。

DPOF プリント

カード内の全画像を、一度にまとめて印刷（インデックスプリント）できます。

プリント指定枚数： 27 枚
用紙サイズ ：プリンタの設定に従う
レイアウト ：プリンタの設定に従う
印刷品質 ：プリンタの設定に従う
情報印刷 ：プリンタの設定に従う
●プリント実行 MENU

1. メニューボタンを押し、左右キーと上下キーで［3］→［DPOF プリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。

●左下図ように印刷設定確認画面が表示されます。
● DPOF 指定されていない場合は、このメニューは選べません。

2. 十字キー中央の実行ボタンを押して、プリントを開始します。

● DPOF 指定の内容にしたがって、印刷が開始されます。プリント中は右の画面が表示されます。
●印刷が終了すると、「プリントが終了しました」の画面が表示されます。

3. 実行ボタンを押して、プリントを終了します。

その他編

プリントが終了しました

●プリントが終了したら左のメッセージが現れます。上下レバー中央の実行ボタンを押してプリントを終了してください。画像のプリントを終了するには、カメラとプリンタの電源を切って、USB ケーブルを外してください。
●プリントが正常に終了すると、印刷の指定はすべて解除されます。

⚠プリンターを確認してください
●で中止

●左のエラーメッセージが現れた場合は、プリンタ側の問題（用紙切れなど）によりプリントできないことがあります。プリントできない場合は、インクの残量が残り少なくなっていないか、紙詰まりを起こしていないかなどプリンタ側を確認してください。プリントが再開されない場合は、上下レバー中央の実行ボタンを押していったんプリントを中止してください。

プリントを中止しました

●プリント中や上記エラーメッセージ表示中に上下レバー中央の実行ボタンを押すと、プリントは途中で中止され、左図のメッセージが現れます。
●表示後しばらくすると左図のメッセージは自動的に消えて、印刷を実行した画面にもどります。印刷の指定は残っていますので、再度 170 ページからの要領でプリントを行なうことができます。

Adobe Photoshop Album Mini（Windows 版のみ）

付属の DiMAGE ビューアー CD-ROM を Windows パソコンに入れると、Adobe Photoshop Album Mini をインストールすることができます。

[Adobe Photoshop Album Mini インストーラの起動] をクリックし、画面の指示にしたがってインストールしてください。

●このソフトは、Windows パソコンでのみご利用いただけます。また、Windows 98/98SE では動作しません。

Adobe Photoshop Album Mini は、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込み、手早く整理し、アルバムを作成したり、簡単な補正を行うことができます。

また、インターネットに接続して弊社のオンラインラボサービスを利用することで、画像のプリントを注文したり、オンラインアルバムに画像を保管することもできます。

弊社のオンラインラボホームページ http://onlinelab.jp/ へアクセスすることで、上記の他にもさまざまなサービスが楽しめます。どうぞご利用ください。
（弊社オンラインラボは、Windows でも Macintosh でもご利用いただけます。）

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードが入っていません	カードを入れてください。		19
カードがロックされています	SD メモリーカードが書き込み禁止になっている。	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを「書き込み許可」の状態にしてください。	19
カードは使えません	カードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		100
日付・時刻を設定して下さい	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた。	日時を再設定してください。（お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。）	108
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした。	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか？	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている。	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	64 80
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている。	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	81
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいになっている。	画質を変えるか、画像サイズを変えるか、画像を消去するか、カードを交換してください。	34
コマ指定してください	消去､プロテクト､DPOF（プリント）指定､メール画像作成で「コマを指定」を選んでコマを指定しなかった。	どの画像を処理するかで「コマを指定」を選んだ場合は、上下レバーで対象となるコマを選んでください。	78 82 93 95

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SD メモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	19
撮影・再生ができない	電池が消耗している	電池を充電してください。	16
	パワーセーブが作動して、電源がきれた（初期設定ではパワーセーブは３分で作動）	シャッターボタンを押すか、再生ボタンを押して電源を入れてください。	106
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
赤い 0000 が表示され、「カードに空きがありません」のメッセージが表れシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	34
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターが OFF になっている	液晶モニターボタンを押して ON にしてください。	30
緑ランプが点灯せず、すばやく点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.28）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	29
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約 10cm 以上離れたものにしかピントが合いません。スーパーマクロは約 6cm。	28
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
オレンジ色ランプがゆっくり点滅している	フラッシュ発光禁止のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった、または、露出補正が－側に設定されている	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。または、露出補正の値を 0.0 に戻してください。	27 61
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
写真の左側に画面外のものが写っている	ファインダーを使って近くのものを撮影した	近距離撮影の場合、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはずれが生じます。液晶モニターを使って撮影してください。	30

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指や髪の毛がかかっていた	ファインダーを使って撮影すると、レンズに物がかかっていても見えないことがあります。物をかけないようにして撮影してください。	21
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
パソコンがカメラ（カード）を認識しない	USB ドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	121
	USB 接続時のカメラ動作が「PictBridge」または「PC カメラ」になっている	セットアップモードメニューの［USB 接続］で［カードリーダー］を選んでください。	109 111
アプリケーション（Windows NetMeeting, Windows Messenger）でカメラが機能しない	PC カメラドライバがインストールされていない	PC カメラドライバをインストールしてください。	124
	USB 接続時のカメラ動作が「PictBridge」または「カードリーダー」になっている	セットアップモードメニューの［USB 接続］で［PC カメラ］を選んでください。	109 125
	アプリケーションを先に起動してからカメラを接続した	カメラを先に PC カメラモードで接続してからアプリケーションを起動してください。	125 126
PictBridge 対応プリンタで印刷できない	USB 接続時のカメラ動作が「カードリーダー」または「PC カメラ」になっている	セットアップモードメニューの［USB 接続］で［PictBridge］を選んでください。	109 128
＊再生モードから撮影に切り替わらない ＊画像の合成のメニューが選べない ＊ PC カメラ機能で画像が表示されない	スライドカバーが閉じている	スライドカバーを開けて電源を入れ、各々の操作を行ってください。	—
カメラが正常に作動しない	カメラの電源を切って電池を一度取り出し、入れ直してください。AC アダプター使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様フォトサポートセンターにご相談ください。		—

カードなしでの撮影について

このカメラは、カードが入っていなくても静止画の撮影と再生ができます。この場合、画像はカメラ内部のメモリに一時的に保存されますが、このメモリは 1 コマ分の容量しかなく、撮影のたびに新しい画像に書き換えられます。したがって、再生で表示できるのは、一番最後に撮影した画像（連続撮影の場合は最後の画像）だけです。
また、メモリに一時保存されているだけですので、カメラの電源を切るとこの画像は消去されます。また、この画像はカードに保存できませんので､再生中にカードを差し込んだりしないでください。カード内のデータが破損する場合があります。

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、完全に充電したばかりの電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
●いったん容量切れになった電池は必ず完全に充電してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は 0 ～ 40℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

DPOF（プリント）指定について

●他のデジタルカメラで DPOF（プリント）設定したカードをこのカメラに入れ、このカメラで DPOF（プリント）設定し直すと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

SD メモリーカード・マルチメディアカードについて

●下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

●カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
●カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
●強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
●曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
●強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
●端子部に手や金属で触れないでください。
●熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

●液晶モニターは精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される映像には影響ありません。
●液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
●寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
●液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
●液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

●カメラに強い衝撃を与えないでください。
●バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
●このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。
海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
●直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
●あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

●カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
●レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
●シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
●レンズ面に直接指で触れないでください。

（次ページへ続く →）

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理に際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また本製品の補修用性能部品は、生産終了後 5 年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を弊社アフターサービス窓口にお持ち込みください。

アクセサリー（別売り）

マリンケース（防水・防塵）MC-DG400

水深 40 メートルの防水性を備えたマリンケースです。携帯性に優れているので、ダイビングを始めとするマリンスポーツはもちろん、陸上、アウトドアの一般のアウトドアスポーツでも気軽にお使いいただけます。

AC アダプター　AC-4

屋内など AC 電源が使える場合は、AC アダプター AC-4 を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。長時間撮影の場合や、PC カメラ機能を使用される場合などにご使用になることをおすすめします。

充電器 BC-800 用 AC コード

充電器 BC-700 に付属の AC コードは AC100-120V 仕様です。日本以外の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じた AC コードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、弊社カメラ統合ポータルサイト→http://ca.konicaminolta.jp/ の FAQ をご覧ください。

地　域	AC コード
ヨーロッパ（イギリスを除く）・中国・韓国・シンガポール向け（220-240V 仕様）	AC コード APC-110（別売り）
イギリス・香港向け（220-240V 仕様）	AC コード APC-120（別売り）
アメリカ・カナダ・台湾向け（100-120V 仕様）	AC コード APC-130（別売り）

その他

下記のようなケースやストラップ、予備用のリチウムイオン電池もご用意しております。
・カメラケース CS-DG101（ブラック、レッド、ベージュ、ピンク）
・本革ケース CS-DG102
・本革ネックストラップ NS-DG400/NS-DG200
・メタルチェーンネックストラップ NG-DG100
・リチウムイオン電池 NP-700

アクセサリーの詳細については、弊社 DiMAGE シリーズのホームページ
http://konicaminolta.jp/dimage/ をご覧ください。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	約 500 万画素
撮像素子	1/2.5 型総画素数約 540 万画素インターライン CCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO（ISO 50 ～ 160 相当）、ISO50、100、200、400 相当
レンズ構成	9 群 11 枚
焦点距離	6.1 ～ 17.1mm（35mm フィルム換算：37 ～ 105mm 相当）
開放絞り値	F2.8 ～ F5.0
撮影距離	0.1m ～∞（カメラ前面から）
最大撮影倍率	0.133（35mm フィルム換算で 0.82 倍相当）
ズーム方式	電動インナーズーム
フォーカス方式	映像 AF 方式
フォーカスフレーム	ワイド（5 点マルチ）/ スポットフォーカスフレーム切り替え可能
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	256 分割測光、スポット測光
シャッター	CCD 電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：4 ～ 1/1000 秒
露出制御方式	プログラム AE
露出補正	± 2EV（1/3EV ステップ）
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光 / 赤目軽減自動発光 / 強制発光 / 発光禁止
フラッシュ連動距離	広角：約 0.2 ～ 3.2m、望遠：約 0.1 ～ 1.8m（カメラ前面から） (撮像感度 AUTO 時)
充電時間	約 6 秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
アイポイント	17.6mm（接眼レンズより）、16.3mm（接眼枠より）
記録媒体	SD メモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG（MOV） DCF 1.0 準拠 DPOF（Ver. 1.1）のプリント機能に対応（日付プリントとインデックスプリントのあり / なし選択可能）、Exif 2.2
記録フォルダー形式	標準形式、日付形式
PIM (PRINT Image Matching)II	対応
Exif Print	対応
記録画素数	静止画：2560 × 1920、2048 × 1536、1600 × 1200、640 × 480（UHS 連続撮影時は 1280 × 960） 動画：320 × 240
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
カラーモード	カラー、モノクロ、セピア
ノイズリダクション	あり（1 秒以上のシャッター速度で輝度ノイズ除去）
Exif. Tag 情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、光源、デジタルズーム倍率、彩度、35mm 換算焦点距離、コントラスト、シャープネス等）、色空間情報、Exif バージョン etc.
消去機能	あり（1 コマ / ボイスメモのみ / 全コマ / コマを指定） 独立 1 枚消去ボタン（十字キーの上キー）
誤消去防止機能	あり（1 コマ / 全コマ / コマを指定）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日 / 月日時刻 / なし（選択可能）
液晶モニター	5.2cm（2.0 型）デジタルインターフェース TFT カラー　モニター画素数：約 11.5 万画素　視野率：約 100%
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示 再生時：再生画像（1 コマ / インデックス 6 コマ / 動画 / 音声）、各種状態表示 拡大再生可能：0.2 倍刻みで 1.2 倍～ 6.0 倍
連続撮影	約 1.9 コマ / 秒（撮影条件に依る）
UHS 連続撮影	あり（1280 × 960 の画素数で、約 11 コマ / 秒の撮影が可能）
セルフタイマー	約 10 秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV） 画素数：320 × 240　フレームレート：15 フレーム / 秒、30 フレーム / 秒　録画時間：無制限（カードの容量・電池寿命に依る） 音声付き（モノラル） ナイトムービー機能あり 動画からの静止画切り出し（セレクトショット）可能（15 秒の音声も同時切り出し可能）　動画からの動画切り出し 可能
音声	ボイスレコード（最大 180 分）、アフレコ（最大 15 秒）、ボイスメモ（最大 15 秒） ファイル形式：WAVE（モノラル）
デジタルズーム	0.1 倍刻みで 1.1 倍～ 4.3 倍、なし選択可能
画像合成	あり、フレームの形（9 種類）/ 大きさ（3 段階）選択可能
画像の回転（手動）	あり
スライドショー	あり（効果選択も可能）
トリミング	あり

フルオートシーンセレクター	あり（ポートレート、スポーツ、風景、夕景から自動選択） 手動選択可能（ポートレート、スポーツ、風景、夕景、スーパーマクロ、夜景、テキストから選択）
操作音	音 1/ 音 2/ なし（選択可能）、音量調節可能（3 段階）
AF 音	音 1/ 音 2/ なし（選択可能）、音量調節可能（3 段階）
シャッター音	音 1/ 音 2/ なし（選択可能）、音量調節可能（3 段階）
キーカスタマイズ機能	あり（露出補正、ホワイトバランス、撮像感度、カラーモード、または、なし）
メール画像作成機能	あり（640 × 480）
使用電池	専用充電式リチウムイオン電池 NP-700
外部電源	DC 4.7V（AC アダプター AC-4 使用時）
連続動作時間	連続再生：約 170 分（専用リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約 150 コマ（CIPA* 準拠：本体同梱の電池・記録メディア使用、液晶モニター ON、画像サイズ 2560 × 1920、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ 50%） *CIPA：カメラ映像機器工業会 約 380 コマ（本体同梱の電池・記録メディア使用、液晶モニター OFF、画像サイズ 2560 × 1920、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ 50%）
PC インターフェース	USB（2.0 対応機器と接続時はフルスピード［12Mbps］でのデータ転送となる）
PC カメラ	対応（カメラからの音声出力対応なし）
対応 OS（マスストレージ）	Windows XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98 Mac OS 9 ～ 9.2.2、Mac OS X v.10.1.3 ～ 10.1.5 / v.10.2.1 ～ 10.2.8 / v.10.3 ～ 10.3.3
対応 OS（PC カメラ）	Windows XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition
PictBridge	対応
使用温度範囲	0 ～ 40℃
大きさ	83.5（幅）×62（高さ）×23.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約 125g（電池、記録メディア別）

充電式リチウムイオン電池 NP-700

電圧	3.7V
容量	660mAh
使用温度範囲	0 ～ 40℃
保管温度範囲	－ 20 ～ 30℃
使用 / 保管湿度範囲	45 ～ 85%（結露しないこと）
大きさ	15.5（幅）× 15（高さ）× 47.5（奥行き）mm
質量（重さ）	約 19g

充電器 BC-800

入力電圧	AC100 ～ 240V ※
入力周波数	50/60Hz
入力容量	8 ～ 15VA
充電出力	DC4.2V 650mA
充電時間	約 90 分
使用温度範囲	0 ～ 40℃
使用湿度範囲	45 ～ 85%（結露しないこと）
大きさ	45（幅）× 31（高さ）× 85（奥行き）mm
質量（重さ）	約 64.5g（AC コードを除く）

※充電器 BC-800 に付属の AC コードを日本以外の国や地域で使われる場合は、その国・地域に応じた AC コードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、143ページ、または、弊社カメラ統合ポータルサイト→ http://ca.konicaminolta.jp/ の FAQ をご覧ください。

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。

http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様フォトサポートセンター

弊社製品のデジタルカメラ、フィルムスキャナ、カメラ、交換レンズ、露出計などの機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル　0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 06-6532-6205

携帯電話・PHS 等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 06-6532-6252

受付時間　10:00 ～ 18:00（日・祝日定休）

0 43325 53376 1

1AG6P1P2133 - - A
9223-2734-61　SY-B407